

社会技術研究開発事業
平成22年度研究開発実施報告書

研究開発プログラム「犯罪からの子どもの安全」

研究開発プロジェクト

「系統的な“防犯学習教材”研究開発・実践プロジェクト」

研究代表者氏名 坂元 昂
(社団法人 日本教育工学会 会長)

1. 研究開発プロジェクト名

系統的な“防犯学習教材”研究開発・実践プロジェクト

2. 研究開発実施の要約

①研究開発目標

- ・防犯リーダーの「防犯指導力育成プログラム」を、P D C Aの形成的評価により構築し、実践普及に供する。
- ・防犯コーディネータの「防犯リーダー指導力育成プログラム」を、同様に、P D C Aの形成的評価により構築し、W e bサイト等 e ーラーニングにより実践普及に供する。
- ・上記2種の育成プログラムを効果的効率的に運営するための「防犯指導支援システム」を構築し提供する。

②実施項目・内容

- ・子どもを守る防犯リーダーの防犯指導力 規準・基準表の開発 (Ver.2)
- ・子どもを守る防犯リーダー指導力アップテキスト及びビデオ教材の本格的な開発
- ・教材と支援システムの整合・連携
- ・地域自立型研修会実施マニュアルの作成
- ・防犯指導支援システムの検証のための中央研修会の実施 (仮運用)
- ・調査対象4地域による地域自立型研修会の試行
- ・第三者評価を目的とした地域自立型研修会の試行
- ・第三者評価の実施
- ・教材Gフィールドによる教材検証を目的とした研修会の実施
- ・その他の地域への訪問・広報活動

③主な結果

- ・昨年度完成している「防犯リーダー指導力アップテキストVol.1」に対応した研修用ビデオ教材が完成した。
- ・実務レベルで駆使できる項目をまとめた「防犯リーダー指導力アップテキスト Vol.2」が完成した。
- ・「防犯リーダー指導力アップテキストVol.2」に対応した研修用ビデオ教材が完成した。
- ・調査対象4地域による地域自立型研修会において教材評価アンケートを実施したところ、非常に高い評価を得ることができた。
- ・教材Gのフィールドによる教材検証を目的とした研修会において教材評価アンケートおよびヒアリングを実施したところ、非常に高い評価を得ることができた。また、近い将来、町内会や班、PTAなどでも教材を活用し、積極的に「防犯リーダー研修会」が開催される可能性が高いことが実証できた。
- ・第三者評価を目的とした地域自立型研修会の試行を、神戸市西区竹の台コミュニティで実施した結果、地域の努力により、地域が自立した形で防犯学習研修会を実施・運営することが可能である、ということが実証された。

- ・第三者評価の結果、第三者（主に行政職員）からの評価は高かったものの、領域総括およびアドバイザーグループより、「これ以上の研究開発の必要性が感じられない」とされ、「防犯指導支援システム」の研究開発はH22年度9月末で中断となり、その他の成果物を創出する研究開発は平成22年度3月末で終了となった。尚、平成23年度9月末までをとりまとめ期間として、プロジェクトを終了することとなった。

※領域総括からの指示による「防犯指導支援システム」の研究開発の中断およびその他一切の研究開発の中断により、当初の研究開発目標であった防犯コーディネータの「防犯リーダー指導力育成プログラム」の開発は中止、「防犯指導支援システム」も未完成のままプロジェクト終了となる。

3. 研究開発実施の具体的内容

(1) 研究開発目標

子どもが巻き込まれる凶悪事件等の発生に伴い、近年では、子どもを犯罪から守るために、警察、自治体、企業、民間の積極的な取り組みが次第に定着しつつある。しかし、その多くは、経験則やそれに基づく個別的な対応策の域にとどまり、科学的な分析や理論に基づく体系的な対策は必ずしも十分には行われていないものと思われる。

さらに、「防犯ボランティアの高齢化による、次世代を担う防犯リーダーの不在」という問題を多くの地域が抱えているということが、平成19年度に本プロジェクトが実施したアンケート調査、ヒアリング調査、座談会等の結果により、明らかになっている。

そこで本プロジェクトでは、子どもを守る防犯リーダーおよびコーディネータ育成のための防犯学習教材および支援システムを開発することを研究目標とした。具体的には、系統的かつ地域特性によってカスタマイズできる教材・支援システムであり、防犯リーダーの指導力向上、防犯活動の効率化と継続を支援するものとなる。

- ・子どもの安全のための防犯リーダー指導力 育成プログラム（規準・基準表、テキスト教材、ビデオ教材、指導者用解説書、研修会実施マニュアル）
- ・子どもの安全のための防犯コーディネータ指導力 育成プログラム（規準・基準表、子どもを守る防犯用語事典など）
- ・防犯指導支援システム（対象：子どもを守る防犯リーダー及びコーディネータ）

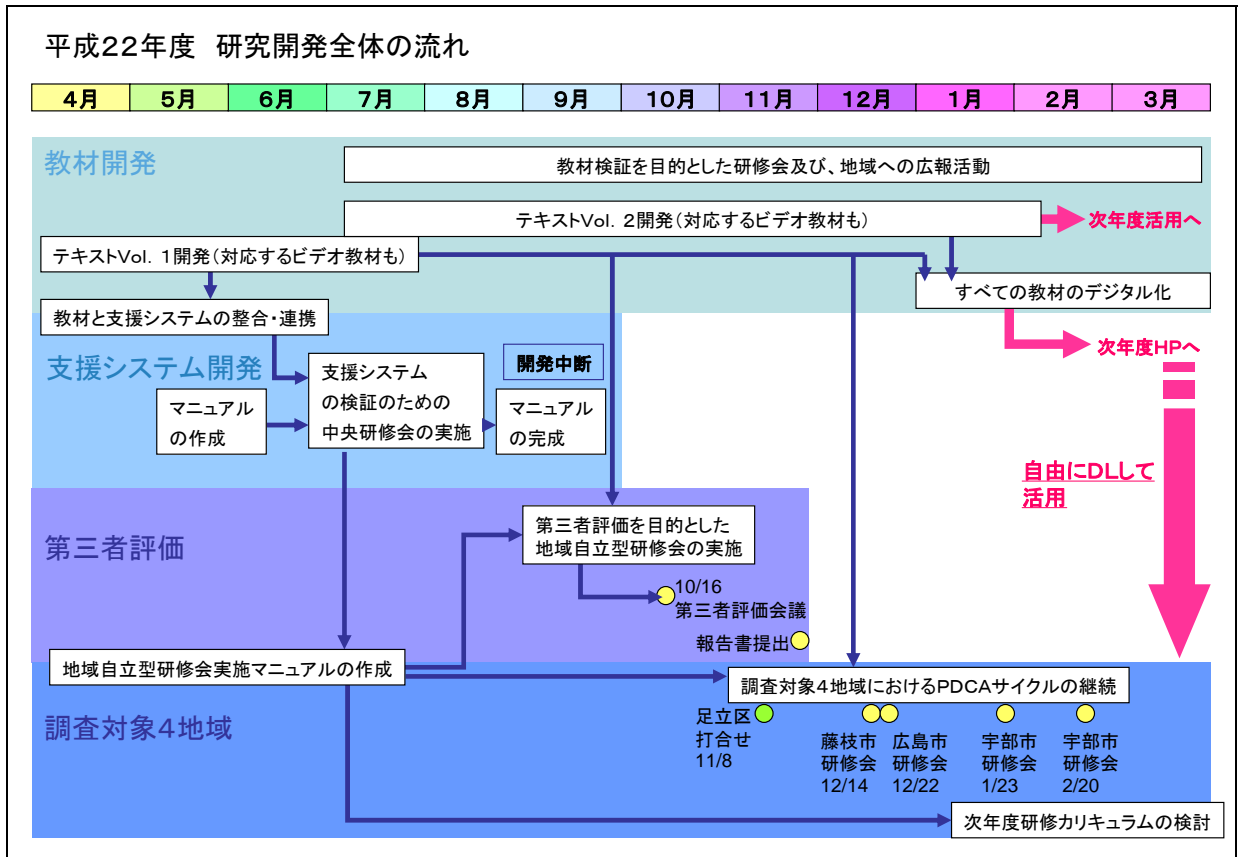
また、当初、「防犯指導支援システム」のようなパソコンを駆使したツールは、高齢化が進む防犯の現場では敬遠されるのではないかと懸念していた。しかし、研究開発を進めていく中で、現状の防犯リーダーたちは、「保護者を巻き込んだ活動を推進していきたい」と考えている地域が多く、「保護者たちの中から、次世代リーダーを発掘したい」という理想があることがわかってきた。さらに、いくつかの地域において防犯指導支援システムの説明や研修を行った結果、「パソコン世代の保護者を取り込むツールとしては有効なのではないか」という地域のリーダーたちからの意見により、そのニーズが明らかとなった。そこで、比較的若い世代（小学生の保護者たち）の防犯活動への参加を促し、次世代リーダー育成の足がかりとなるよう、「防犯指導支援システム」の地域における周知を進める必要があると考えている。

※本プロジェクトが定義する「子どもを守る防犯リーダー」の対象は、自治会長、町内会長、PTA会長、退職企業人（公務員・教員・警察官OBを含む）などを中心に正義感のある人材を分野別・職能別に、1小学校区に数人を想定している。従って、地域の防犯活動従事者たちが研修を積み重ねていく中で、「我々の地域では、誰がどの分野の防犯リーダーを担うか」を自らで検討していく。

※本プロジェクトが定義する「子どもを守る防犯コーディネータ」の対象は、理想的には、行政における当該部署（安全・安心まちづくり課、地域防犯課、危機管理室など）の担当職員を想定している。

(2) 実施方法・実施内容

今年度は、当初の計画以外に、領域からの指示により、第三者評価を実施することとなった。



①教材と支援システムの整合・連携

防犯指導支援システムを活用して研修カリキュラム作成のための支援資料を作成できるよう、犯罪発生特性・地域の防犯対策実施状況と、教材の内容を整合・連携させ、地域の特性に応じたテキスト項目の優先順位を割り出せる機能を開発した。

②地域自立型研修会実施マニュアルの作成

地域が自立的に研修会を実施するためのマニュアルを作成した。地域自立型研修会を実施することの意義や、その準備・運営、防犯指導支援マニュアルの活用、研修会後の座談会、地域における研修会の継続的实施に至るまでがわかる内容となっている。

③支援システムの検証のための中央研修会の実施

実証4地域の代表者を招聘し、東京大学生産技術研究所にて、中央研修会を行った。目的は、防犯指導支援システムを運用するにあたり、インターフェースやマニュアルなどについて、現場の方々の意見を抽出することであった。



具体的には、防犯指導支援システムを活用して、各地域の犯罪発生特性と防犯対策の現状分析を行ったり、他地域の研修状況・活動状況を参考にしたりするなど、地域独自の研修カリキュラムを作成するための支援材料を導き出すためのハウツーを地域の方に学んでいただくことを通し、各種支援機能がどのように充実していれば良いかの検証と、各種機能の活用プロセスの検証を行った。

④調査対象4地域におけるPDCAサイクルの継続

研究開発開始当初から設定している調査対象4地域（東京都足立区西新井小学校区、静岡県藤枝市広幡地区、広島県広島市西区南観音学区、山口県宇部市藤山校区）は、PDCAサイクルを3年間回しながら、本プロジェクトのプログラムの改善と共に成長していく地域として選定した。よって、研修会の実施目的も、本プロジェクトとしての最終的な目標は「防犯リーダーの指導力アップ」ではあるが、平成21年度においては、まだその準備段階として、防犯リーダーだけではなく、広く一般の防犯ボランティアを対象とした研修会を実施し、教材および支援システムの検証

を行い、その結果をフィードバックし、教材や支援システムの改良に努めてきた。

この4地域に関しては、今年度（平成22年度）もこれまでの計画通り、PDCAサイクルを進めた。昨年度までは、テキスト項目の中から任意の項目を選択してもらい、研修会を実施してきたが、今年度は、「地域自立型研修会実施マニュアル」に沿って防犯指導支援システムの「防犯特性分析機能」を活用し、そこから割り出された「地域特性の応じたテキスト項目の優先順位」を参照し、研修する項目を検討してもらった。これにより、各地域において「地域独自の研修カリキュラム」が作成され、地域の特性も見られた。



各地域における研修会実施日程は以下の通りであった。

- 平成22年12月14日 静岡県藤枝市広幡地区 防犯まちづくり推進協議会 研修会
テキスト9：学校での防犯教育
テキスト7：地域安全マップ
- 平成22年12月22日 広島県広島市西区南観音学区 社会福祉協議会 研修会
テキスト6：どこが安全？どこが危険？
テキスト16：広がるネット犯罪
- 平成23年1月23日 山口県宇部市藤山校区 コミュニティ協議会 研修会
テキスト6：どこが安全？どこが危険？
テキスト10：地域での組織作りと連携
- 平成23年2月20日 山口県宇部市藤山校区 コミュニティ協議会 研修会
テキスト6：どこが安全？どこが危険？
テキスト10：地域での組織作りと連携

※東京都足立区西新井第一小学校区については、平成22年11月8日に地域の方々との協議した結果、今年度の研修会実施に関しては見送り、来年度改めて検討することとなった。今年度は、本プロジェクトとしても想定外の第三者評価実施という計画が急遽入ってしまったため、既存の4地域への当該年度におけるアプローチが遅れてしまい、PTA組織を軸とした西新井第一小学校区では、年度計画に研修会実施を盛り込むことができなくなってしまったためである。

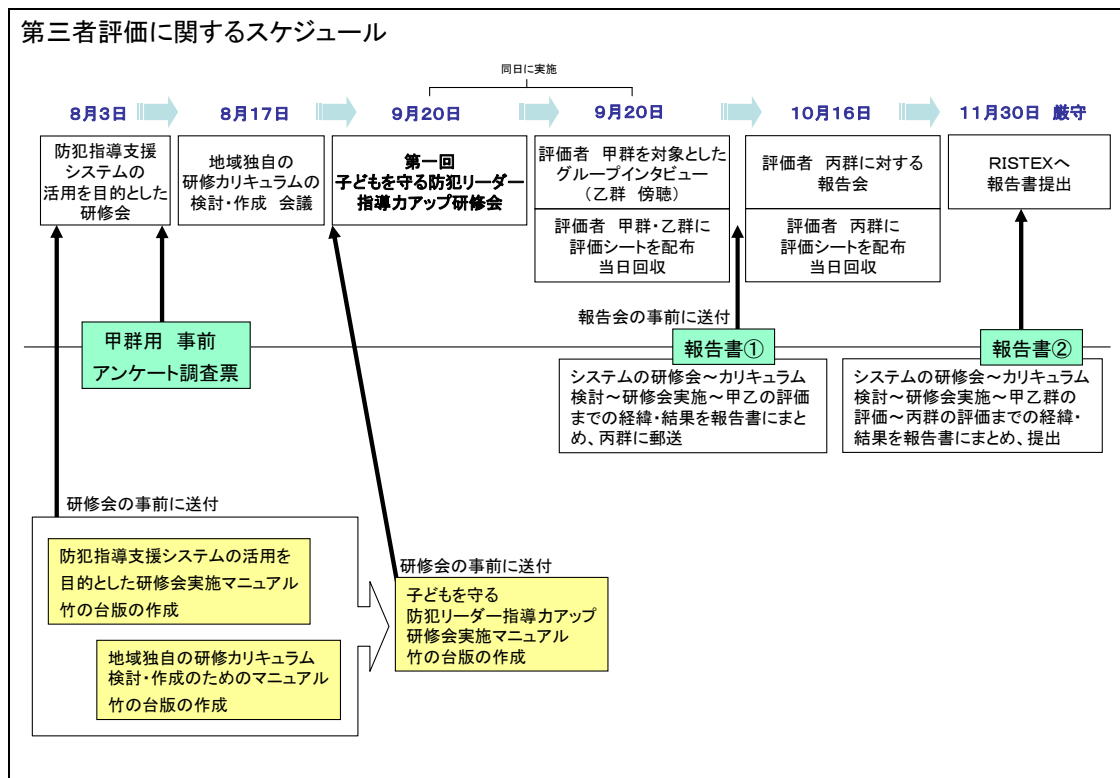
⑤第三者評価を目的とした防犯リーダー指導力アップ地域自立型研修会の実施

平成22年次研究開発計画書作成にあたり、委託元である（独）科学技術振興機構 社会技術研究開発センター「犯罪からの子どもの安全」領域マネジメントグループにより、「今年度はいったん立ち止まり、現時点で使えるものをまとめ、第三者による社会的な評価を受け、課題や今後の方針について検討すべきである」と判断されたため、実施した。

具体的には、「平成22年9月末までに、システムを活用した一連の研修を、既存の調査対象4地域以外の新たな地域を対象に実施し、第三者から評価を受け、結果をまとめるよう、計画すること」であり、非常に短期間で評価を要求された

ため、本実証実験の対象地域を選定する際の条件を、「地域の防犯活動に、なんらかの形で既にパソコンを取り入れている地域」もしくは、「今後、積極的にパソコンを取り入れた活動を展開していきたいと考えている地域」と設定した。この条件に合致した地域で、本プロジェクトの研究開発目的を理解し協力の承諾を得ることができた、「兵庫県神戸市西区西神ニュータウン竹の台地域」(以下、竹の台地域)を実証地域として、研修会を行った。

実施のスケジュールは次の通りである。



尚、今回実施する評価における評価者は、以下の3種とし、それぞれの立場から、異なる評価方法と評価項目により評価を実施した。

◆甲群→地域自立型研修会の研修者(6名)

実際に教材と支援システムを活用し、現場の目線で評価を実施。

評価シートへの記入、グループインタビュー。

- ・竹の台ふれあいのまちづくり協議会 委員長 笈進 氏
- ・竹の台ふれあいのまちづくり協議会 副委員長 森川賢子 氏
- ・神戸市西区西神ニュータウン竹の台1丁目自治会 会長 絹川正明 氏
- ・地域まちづくり防犯グループ 代表 山崎安之 氏
- ・竹の台子ども連絡会代表・保護者代表 濱尚美 氏
- ・青少協西神ニュータウン竹の台支部 理事 小村美保 氏

◆乙群→地域自立型研修会の研修者以外の地域のリーダーレベルの方(4名)

現場で活動するリーダーたちの取りまとめ役(本プロジェクトが想定している地域のコーディネータ的役割)の視点による評価を実施。

甲群へのグループインタビューの傍聴後、評価シートへの記入。

- ・神戸市西区役所 まちづくり支援課 課長 松原清志 氏

- ・神戸市西区役所 まちづくり支援課 主査 岩瀬好英 氏
- ・神戸市立竹の台小学校 校長 西馬和男 氏
- ・神戸市立竹の台小学校 教頭 嶋田良円 氏

◆丙群→行政やNPOなどのコーディネーターレベルの第三者の方(5名)

第三者的立場による評価を実施。

地域における研修会にオブザーバーとして参加、甲群へのグループインタビュー、プロジェクトからの報告書参照、プロジェクトによるプレゼンテーションを経て、評価シートへの記入。

- ・神戸市危機管理室 主幹 大崎克英 氏
- ・前・静岡県県民部くらし交通安全室 くらし安全スタッフ 永嶋孝朗 氏
- ・北海道岩見沢市経済部企業立地情報化推進室情報政策担当主幹 黄瀬 信之氏
- ・厚木市役所 安心安全部 生活安全課 市民安全指導員 伊藤 邦彦 氏
- ・NPO法人 地域交流センター 代表理事 橋本正法 氏

○防犯指導支援システムの活用を目的とした研修会

平成22年8月3日(火) 13:00~16:00

場所：神戸市立竹の台小学校 パソコン教室

研修対象者(竹の台地域におけるリーダー格の方々)

- ・竹の台ふれあいのまちづくり協議会 委員長 箕進 氏
- ・竹の台ふれあいのまちづくり協議会 副委員長 森川賢子 氏
- ・神戸市西区西神ニュータウン竹の台1丁目自治会 会長 絹川正明 氏
- ・地域まちづくり防犯グループ 代表 山崎安之 氏
- ・竹の台子ども連絡会代表・保護者代表 濱尚美 氏
- ・青少協西神ニュータウン竹の台支部 理事 小村美保 氏

オブザーバー

- ・神戸市立竹の台小学校 教頭 嶋田良円 氏
- ・神戸市西区役所 まちづくり支援課 課長 松原清志 氏
- ・神戸市西区役所 まちづくり支援課 主査 岩瀬好英 氏

プロジェクトサイド参加者

- ・目白大学 社会学部 教授 原 克彦
 - ・東京大学 生産技術研究所 助教 沼田宗純
 - ・園田学園女子大学 非常勤講師 稲熊 孝直
 - ・中央大学大学院工学系研究科 齋藤勝久
 - ・(社)日本教育工学振興会 調査研究担当調査役 増田迪博
 - ・(社)日本教育工学振興会 リサーチアシスタント研究員 西江麻由美
- 委託元「犯罪からの子どもの安全」領域 サイトビジット
- ・JST社会技術開発研究センター 企画運営室 渡部麻衣子 氏

予定していたタイムスケジュールよりも早く進み、ログインの入力に少し時間がかかった以外は順調に説明と操作は進んだ。参加者の中には、説明した範囲外の機能を使いこなす人も現れた。

防犯特性分析機能の「犯罪発生状況分析」については、描画グラフの選択からグラフの描画結果が表示されるまでの一連の操作を問題なく行えた。罪種別の「犯

罪等発生件数」の分析では、風俗犯が最も多い結果となり、地域の防犯リーダーの感覚とも一致し、本機能の有効性を示すことができた。

同じく防犯特性分析機能の「地域活動状況」についても、地域活動状況の把握、地域活動詳細レポート、新規に活動を追加した場合の評価等、一連の操作を問題なく行えた。

「犯罪対策状況分析」機能は、前述の4地域における検証と同様に、竹の台地域の防犯活動状況と東京都足立区の活動状況を比較したものを例示し、他の地域が行っている活動との違いを認識できた。

研修終了後、講師を含めた7名にアンケートをとり、感想を伺った。アンケートの結果、全体的にシステムはうまく使えており、普段パソコンを使わない方からも一定の評価を頂くことができた。

○地域独自の研修カリキュラムの検討と作成

平成22年8月17日(火) 19:00~21:00

場所：竹の台地域福祉センター 会議室

出席者(竹の台地域におけるリーダー格の方々)

- ・竹の台ふれあいのまちづくり協議会 委員長 寛進 氏
- ・竹の台ふれあいのまちづくり協議会 副委員長 森川賢子 氏
- ・神戸市西区西神ニュータウン竹の台1丁目自治会 会長 絹川正明 氏
- ・地域まちづくり防犯グループ 代表 山崎安之 氏
- ・竹の台子ども連絡会代表・保護者代表 濱尚美 氏
- ・青少協西神ニュータウン竹の台支部 理事 小村美保 氏

プロジェクトサイド参加者

- ・目白大学 社会学部 教授 原 克彦
- ・東京大学 生産技術研究所 助教 沼田宗純
- ・園田学園女子大学 非常勤講師 稲熊孝直
- ・園田学園女子大学 非常勤講師 上梶英之
- ・(社)日本教育工学振興会 調査研究担当調査役 増田迪博

検討内容

8月3日に実施した「防犯指導支援システムの活用を目的とした研修会」において、防犯特性分析機能を使って地域の犯罪発生特性を分析し、地域活動を確認した結果割り出された「竹の台が研修すべきテキスト項目」を参考に、地域独自の研修カリキュラムを検討した。

→・防犯指導支援システムの防犯特性分析機能によって割り出された「研修すべきテキスト項目」は、地域にとって違和感のあるものであった。

→犯罪発生状況と、地域の活動状況(活動の有無)だけではなく、「地域独自の課題」(PTA組織が存在しない、地域活動に保護者の参加が少ないなど)を防犯特性分析機能の中の分析項目に付加することで、地域の状況により合致するカリキュラムが検討できるのではないか、ということがわかった。

→竹の台の研修カリキュラム作成においては、防犯特性分析機能から出てきたデータを参照しながら、地域の課題を反映させながら、後日、地域で再

検討しカリキュラム作成した。

○子どもを守る防犯リーダー指導力アップ研修会 竹の台 第一回 研修会

平成22年9月20日(月・祝) 10:00~13:00

場所：神戸市立竹の台小学校 パソコン教室

出席者(竹の台地域におけるリーダー格の方々)

- ・竹の台ふれあいのまちづくり協議会 委員長 笈進 氏
- ・竹の台ふれあいのまちづくり協議会 副委員長 森川賢子 氏
- ・神戸市西区西神ニュータウン竹の台1丁目自治会 会長 絹川正明 氏
- ・地域まちづくり防犯グループ 代表 山崎安之 氏
- ・竹の台子ども連絡会代表・保護者代表 濱尚美 氏
- ・青少協西神ニュータウン竹の台支部 理事 小村美保 氏
- ・一般保護者の方々(小中学校の保護者10名)

オブザーバー

- ・神戸市立竹の台小学校 校長 西馬和男 氏
- ・神戸市立竹の台小学校 教頭 嶋田良円 氏
- ・神戸市西区役所 まちづくり支援課 課長 松原清志 氏
- ・神戸市西区役所 まちづくり支援課 主査 岩瀬好英 氏

プロジェクトサイド参加者

- ・目白大学 社会学部 教授 原 克彦
- ・東京大学 生産技術研究所 助教 沼田宗純
- ・園田学園女子大学 非常勤講師 稲熊孝直
- ・園田学園女子大学 非常勤講師 上相英之
- ・(社)日本教育工学振興会 調査研究担当調査役 増田迪博
- ・(社)日本教育工学振興会 リサーチアシスタント研究員 西江麻由美

第三者評価委員

- ・神戸市危機管理室 主幹 大崎克英 氏
- ・前・静岡県県民部くらし交通安全室 くらし安全スタッフ 永嶋孝朗 氏
- ・北海道岩見沢市経済部企業立地情報化推進室 情報政策担当主幹 黄瀬信之 氏
- ・厚木市役所 安心安全部 生活安全課 市民安全指導員 伊藤 邦彦 氏

委託元「犯罪からの子どもの安全」領域 サイトビジット

- ・(独)科学技術振興機構 社会技術開発研究センター

「犯罪からの子どもの安全」領域総括 片山恒雄 氏・企画運営室 渡部麻衣子 氏

全体の研修カリキュラムは検討中の状態であったが、まず第一回を開催してみようということになった。企画の主旨は、以下の通りである。(尚、本プロジェクトからは諸々のマニュアル・教材・支援システムを提供しただけで、企画・実施・運営などはすべて地域に任せた)

主旨：竹の台地域の重要な課題として「地域防犯活動への保護者の参加」が挙げられる。しかし、今まで、保護者を活動に取り込むためにいろいろな工夫をしてきたがうまくいかなかった。そこで今回は、「防犯指導支援システム」というITツールを活用するという事で保護者(特に父親)の興味を引き、参加者を募ることとした。また、防犯特性分析機能から割り出さ

れた「竹の台における研修テキスト優先順位」の6位であった「防犯ブザーの効果と留意点」も保護者の興味をひく内容であるので、これも研修項目に取り入れた。

この研修会に参加することをきっかけとして、保護者たちが地域の防犯活動において次世代のリーダーに育っていくことを期待するとともに、現リーダーたちの指導力アップも目指す。

⑥教材検証を目的とした研修会の実施

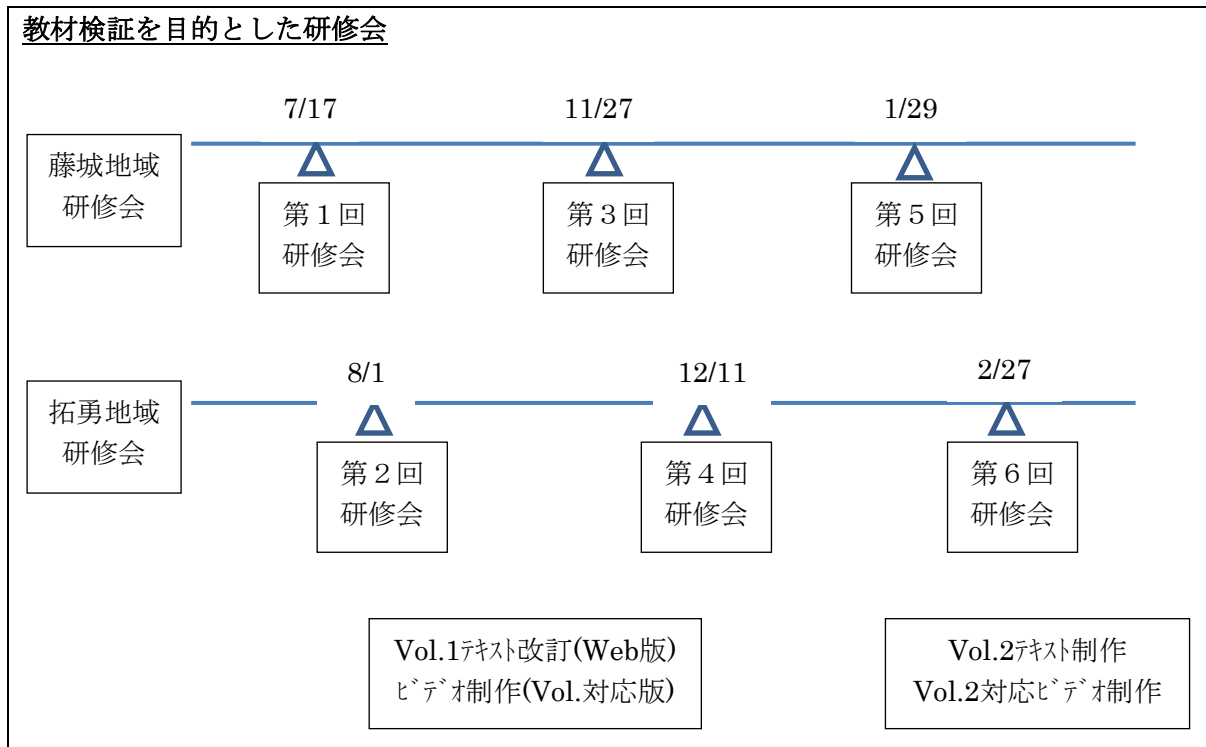
研修会は、本プロジェクトに協力いただいている京都市藤城地域と苫小牧市拓勇地域で次の目的で実施した。

◆開発した教材を使った実証研修

Vol. 1 テキスト（防犯リーダー入門編）とビデオ教材を使い、地域の人たちだけで自立型研修が実施できること。この研修は、社会実装に向けた実証研修を試みることである。

◆開発中の教材を使った検証研修

Vol. 2 テキスト（防犯リーダー上級編）と Vol.1 対応ビデオ教材（今年度制作分）を使い、研修を実施し、教材の評価・研修を実施すること。この研修は、開発中の教材を評価し、教材開発にフィードバックすることである。



○第1回研修会

日時 平成22年7月17日（土）11:00～16:00

場所 京都市立藤城小学校

参加者 プロジェクトサイド 原 克彦（目白大学教授）

尚和 慧 (目白大学研究補助員)
高橋 猛 (藤城小学校学校運営協議会会長)
松井順子 (藤城小学校学校運営協議会副会長)
佐藤一美 (NPO法人エクスプローラー北海道代表理事)

藤城地域のボランティア 15名

研修の内容

昨年度開発したVol. 1 テキスト及びビデオ (開発済み12本分) の教材を評価する。

- ・講義 テキスト8 「地域の特性と防犯対策」
地域の特性である3つの要素「統計的特徴」「環境的特徴」「地域の状況」を解説し、地域の違いの議論と意見交換を行った。」
- ・講義 テキスト11 「防犯組織の運営と課題解決」
テキストボランティア支援サイトの資料等を参考にして、実際の活動とのギャップを解説し、地域の運営の問題点と解決策の議論と意見交換を行った。

○第2回研修会

日時 平成22年8月1日 (日) 11:00~16:00

場所 北海道苫小牧市立拓勇小学校

参加者 プロジェクトサイド 原 克彦 (目白大学教授)
内橋美佳 (目白大学助手)
尚和 慧 (目白大学研究補助員)
石原一彦 (岐阜聖徳学園大学教授)
佐藤一美 (NPO法人エクスプローラー北海道代表理事)

苫小牧地域のボランティア 22名

研修の内容

苫小牧の防犯活動と犯罪発生状況などを分析し、防犯活動のニーズに合わせ、地域の安全安心の向上と人材育成を目的とした。講義の中で使用したテキストとビデオの教材も評価した。

- ・講義 テキスト2 「防犯パトロールの進め方」
防犯パトロールの目的、効果、留意点、事件が発生した場合の対処方について、解説した。
- ・講義 テキスト3 「こんな子が狙われている」
子どもが巻き込まれやすい犯罪、手口などを解説した。
- ・講義 テキスト13 「防犯活動の推進」
地域住民の防犯対策情報などの情報発信について、解説した。
- ・講義 テキスト16 「広がるネット犯罪」
出会い系サイト、ネットオークション、掲示板やメールなどのトラブルの実態の具体事例を紹介し、解説した。

○第3回研修会

日時 平成22年11月27日 (土) 11:00~15:00

場所 京都市立藤城小学校

参加者 プロジェクトサイド 原 克彦 (目白大学教授)
内橋美佳 (目白大学助手)
尚和 慧 (目白大学研究補助員)
寺本篤史 (目白大学研究補助員)
高橋 猛 (藤城小学校学校運営協議会会長)
松井順子 (藤城小学校学校運営協議会副会長)
佐藤一美 (NPO法人エクスプローラー北海道代表理事)

藤城地域と藤森地域のボランティア 13名

研修の内容

警察や防犯協会などの第三者の講師による研修ではなく、地域自ら人材育成を目指し、次世代に「安全」を継承するために藤城地域の自立型研修会を行う実証研修である。テキストとビデオの研修教材を使い、受講者からの意見による講義と意見交換を行った。

- ・講義 テキスト9 「学校での防犯教育」
テキストから地域の学校での日常的な活動や体系的な指導内容を理解しあった。ビデオから活動事例(自治連合会の見守り活動、学校での防犯活動、学校との連携活動、パトロールの課題など)を学んだ。
- ・講義 テキスト6 「どこが安全? どこが危険?」
犯罪が起きやすい場所には、入りやすく見えにくい場所、入りやすく周りの家からにくい家、公園や駐車場、エレベータ、公衆トイレなどがあり、危険な目に遭った場合の対応の指導方法(特に子供への指導)を学んだ。さらにビデオ教材を見て、参加者同士で確かめ合った。
- ・講義 テキスト19 「さまざまな防犯器具の使い方」
防犯器具には、防犯装置(防犯ブザー、GPSキッズ携帯、さすまた、催涙スプレー、ネットランチャー、スタンガンなど)、防犯設備(防犯カメラ、防犯灯、セキュリティシステムなど)があることを学ぶ。
「さすまた」の使い方は、実演できなかったが、4人でグループを組んでグループごとに考えて、発表し合った。
「事例の報告」を聞き、110番して警察が来るまでの対応、危険時に瞬時にいかに行動できるか指示できるかなどを意見交換した。

○第4回研修会

日時 平成22年12月11日(土) 11:00~16:00

場所 北海道苫小牧市立拓勇小学校

参加者 プロジェクトサイド 原 克彦 (目白大学教授)
内橋美佳 (目白大学助手)
尚和 慧 (目白大学研究補助員)
寺本篤史 (目白大学研究補助員)
松井順子 (藤城小学校学校運営協議会副会長)
佐藤一美 (NPO法人エクスプローラー北海道代表理事)
増田迪博 (社団法人日本教育工学振興会調査役)

苫小牧地域のボランティア 24名

研修の内容

地域で防犯活動をされているボランティアの方が築き上げた「安全」を次世代に引き継ぎ、さらに次世代の防犯リーダーの防犯指導力を育成するために、地域による自立型研修を実施した。特に今回は、防犯指導支援システムを使い、苫小牧地域の犯罪発生状況や防犯活動状況から地域の防犯特性を分析し、苫小牧で必要な研修内容を自動的に割り出した。また、地域で必要とする防犯指導力を考慮し、4つの研修内容「地域の特性と防犯対策」「国の施策と条例の理解」「さまざまな防犯器具の使い方」「学校での防犯教育」を行うことになった。

・講義 テキスト8 「地域の特性と防犯対策」

地域の特性とは何かについて、環境的な特徴、統計的な特徴、文化的な特徴、ハード的とソフト的な特徴など、一般的な説明があり、拓勇小学校の地域は、新興住宅街で人と人のつながりが薄いという特性があるという認識を確認し合った。また、拓勇小学校は児童数が多く（平成21年度991人）、教員だけで子ども安全を保ってのが難しいため、地域の人や保護者の協力を得て、登下校時に安全指導やウォーキングバスにより子どもの安全を確保していると紹介があった。

・講義 テキスト20 「国の施策と条例の理解」

防犯活動の事例として、京都市の「放課後子どもプラン」が紹介された。地域の保護者・地域の方々・学校運営協議会・学生等が参画し、放課後の子どもたちに「放課後まなび教室」を実施している。学習の習慣づけを図る『自主的な学びの場』と『安心・安全な居場所』を充実することを目的としている。京都市では、「放課後まなび教室」を実施し、現在、全177小学校区で運営している。

また、今後、児童の健全育成の場・昼間留守家庭児童の生活の場として重要な役割を果たしてきた「児童館・学童クラブ事業」との連携を図っていくことにしている。

・講義 テキスト19 「さまざまな防犯器具の使い方」

「PCを操作する能力」「自分の地域をリサーチする能力」「赤本の内容を基に内容を組み立てる能力」について、簡単な説明があった。また、テキストに掲載されている防犯器具（防犯ブザー、防犯カメラ、さすまた、催涙スプレー、ネットランチャーなど）について、使い方のポイント等も説明された。

・講義 テキスト9 「学校での防犯教育」

学校における防犯教育について、テキストに従って一般的なことが説明された。具体的な例として自分たちの地域（拓勇地域）での防犯教育の取り組みについて、紹介された。

○第5回研修会

日時 平成23年1月29日（土）11:00～16:00

場所 京都市立藤城小学校

参加者 プロジェクトサイド 原 克彦（目白大学教授）

尚和 慧（目白大学研究補助員）

高橋 猛 (藤城小学校学校運営協議会会長)
松井順子 (藤城小学校学校運営協議会副会長)
佐藤一美 (NPO法人エクスプローラー北海道代表理事)

藤城地域と藤森地域のボランティア 9名

研修の内容

Vol. 2テキスト(上級編)の原稿を検証することを兼ねた研修を行った。また、Vol. 1テキスト対応ビデオ(本年度制作の7本)の視聴と評価・検証も行った。防犯活動は、一般的に見守り活動やパトロールに代表される。しかし、現在と未来の子どもたちの安全を築くためには、地域の防犯リーダーが知識を学ぶこと、様々な国の施策やシステムを知ること、子どもたちを指導する教師や保護者や地域の人々への指導ポイントを知ることなどが必要である。調べたい時にすぐに調べられるようなシステムや教科書などがあると、便利であり、意欲があればすぐにわかるという仕組みを学んだ。

- ・講義 テキスト8 「子どもの生活の理解」
子どもの一日の生活の流れ、放課後子どもプラン「学び教室」での子どもの動き、実際に子どもたちが遊んでいる場所、子ども遊びの種類などが紹介された。また、子どもが相談しやすい地域の環境づくりも学んだ。
- ・講義 テキスト13 「子どもを守る行政の取り組み」
スクールガードリーダーとスクールサポーターの役割、保護司の役割、民生委員の役割について、学ぶことにより、その地域の行政の子どもを守る取り組みが紹介された。
- ・講義 テキスト9 「子どもへの安全指導」
子どもが自分自身で身を守る方法、子どもにできる護身術などの安全指導が紹介された。

○第6回研修会

日時 平成23年2月27日(日) 11:00~16:00

場所 北海道苫小牧市立拓勇小学校

参加者 プロジェクトサイド 原 克彦(目白大学教授)
内橋美佳(目白大学助手)
尚和 慧(目白大学研究補助員)
寺本篤史(目白大学研究補助員)
宮原克彦(目白大学)
石原一彦(岐阜聖徳学園大学教授)
高橋 猛(藤城小学校学校運営協議会会長)
松井順子(藤城小学校学校運営協議会副会長)
佐藤一美(NPO法人エクスプローラー北海道代表理事)

苫小牧地域ボランティア 15名

研修の内容

Vol. 2テキスト(上級編)の原稿を検証することを兼ねた研修を行った。また、Vol. 1テキスト対応ビデオ(本年度制作の7本)の視聴と評価・検証も行った。テキ

ストの検証では、防犯力向上のためにはどのような仕組みがあればよいかという観点でコピーしたテキストの冊子の空いているところに朱書きで記入してもらった。

・講義 テキスト6 「防犯情報の伝達」

情報発信の事例として、京都市伏見区で発行している「安全ニュース」、京都府警察の「子ども安全メール」、藤森地域の「藤城やまざくら通信」、墨染地域の「墨染だより」、「藤森中学校下地域生徒指導連絡協議会」などについて、紹介があった。

・講義 テキスト4 「見守り活動の運営」

見守り活動を地域ボランティアに依頼する方法について、実践者による紹介があった。その方法は、案内方法、プレスリリースの文書の書き方、助成金申請などの詳細などである。

・講義 テキスト12 「ネット犯罪に遭わない為の知恵」

ネット犯罪について、専門の研究者に多くの事例や最近の事例や身近な事例などを引き合いにわかりやすく、解説いただいた。

ネット犯罪は、通常の犯罪とは違って、大きな特徴がある。ネット犯罪は、本人が意識しようがしまいが、簡単に犯罪になってしまう。面白半分に意識せずにやったことが犯罪になってしまう。やっていいこととやっていけないことが判断できるように判断力を養うための教育が必要である。このようにネット犯罪に巻き込まれないための指導方法を学んだ。

詳細には、サイバー犯罪に対する子どもたちへの啓発活動、ネットの匿名性やなりすましの危険、ネットショッピングやオークションの安全利用、ネットでの誹謗中傷を防ぐ個人情報の正しい取扱い、サイバー犯罪を受けた場合の対応、ネットいじめへの対応と被害を受けた子どもたちへの対応、困ったときのコミュニケーションなどの具体的な例を挙げた紹介であった。

(3) 研究開発結果・成果

昨年度においては、調査対象地域以外でのトライアウト研修会の実施を経て、「子どもを守る防犯リーダーの防犯指導力研修テキスト試作版」を活用した研修会を調査対象4地域で実施し、PDCAサイクルを始動させた。また、上記の研修会の結果を元に、本格的な「子どもを守る防犯リーダーの防犯指導力研修テキストVol.1」の開発に着手するとともに、防犯コーディネータの規準・基準表の開発も進めた。

今年度は、昨年度の成果を使って、調査対象4地域における「地域自立型研修会」を実施できた他、領域の指示通り、第三者評価のための研修会および第三者評価を実施し、教材や支援システムについて高い評価を得ることができた。しかし残念ながら、領域総括およびアドバイザーグループより、「これ以上の研究開発の必要性が感じられない」とされ、「防犯指導支援システム」の研究開発はH22年度9月末で中断となり、その他の成果物を創出する研究開発は平成22年度3月末で終了となった。尚、平成23年度9月末までをとりまとめ期間として、プロジェクトを終了することとなった。

尚、昨年度には完成していなかった「子どもを守る防犯リーダーの防犯指導力研修テキストVol.1」に対応したビデオ教材や、「子どもを守る防犯リーダーの防犯指導力研修テキストVol.2」とこれに対応したビデオ教材も完成させることができた。

①子どもを守る防犯リーダー指導力アップテキスト及びビデオ教材の本格的な開発

①-1. 研修用ビデオの制作

防犯リーダー指導力アップテキスト (Vol. 1 テキスト) に対応したビデオは、昨年度 (平成21年度) と今年度テキスト (平成22年度) の2年間で制作した。昨年度は20章の内12章を制作した。今年度は、残りの7章を制作した。ビデオは、研修に参加した人たちからわかりやすかったという意見が多く、テキストを補完する上で、重要で必要性の高い教材であると位置付けている。ビデオは、昨年度と同じく、防犯リーダーが指導するために必要となる基本的な考え方や知識及び身に付けておかなければならない技能などを5分程度にまとめている。さらにビデオとテキストを併用して、研修で使うだけでなく、ボランティアが自分で知識を学んだり、確認したりする自学自習にも使うことができる。

章	タイトル	制作年度	備考
1	登下校の見守りとあいさつ運動	平成22年度	
2	防犯パトロールの進め方	平成22年度	
3	こんな子が狙われている	平成22年度	
4	防犯ブザーの効果と留意点	平成22年度	
5	家の中でも気を付けて	平成22年度	
6	どこが完全? どこが危険?	平成22年度	
7	地域安全マップ	平成22年度	
8	地域の特性と防犯対策	平成23年度	
9	学校での防犯教育	平成22年度	
10	地域での組織作りと連携	平成22年度	

11	防犯組織の運営と課題解決	平成23年度	
12	子ども110番の家	平成22年度	
13	防犯活動の推進	平成22年度	
14	少年団も頑張っている		制作せず
15	子どもの理解とアフターケア	平成23年度	
16	広がるネット犯罪	平成22年度	
17	携帯電話	平成23年度	
18	サイバー犯罪の知識と対応	平成23年度	
19	さまざまな防犯器具の使い方	平成23年度	
20	国の施策と条例の理解	平成23年度	

①-2. 防犯リーダー指導力アップテキスト (Vol. 2 テキスト) の開発

昨年度開発したVol. 1 テキストは、4 地域研修と2回のトライアウト研修で試行した結果に基づいて、試作版テキストを改訂したものであり、防犯リーダーが身に付けておくべき基本的な項目(知識と技能)をまとめたものである。このVol. 1 テキストは、防犯リーダー向けの入門編あるいは基礎編というべき一般学習用テキストである。



一方、今年度開発したVol. 2 テキストは、防犯リーダーが基本的な項目を身に付け、さらに実務レベルで駆使できる項目をまとめたものであり、上級編というべき専門学習用テキストである。

章	テキストのタイトル	ビデオのタイトル
1	防犯ボランティアとは	防犯ボランティアとは
2	環境に応じた防犯対策	環境に応じた防犯対策
3	防犯における情報の把握	防犯における情報の把握
4	見守り活動の運営	見守り活動の運営(広報・協力の依頼編)
		見守り活動の運営(予算管理編)
5	見守り活動の指導	見守り活動の指導
6	防犯情報の発信と伝達	防犯情報の発信と伝達
7	関係機関との具体的な連携	関係機関との具体的な連携
8	子どもの生活の理解	子どもの生活の理解
9	子どもへの安全指導	子どもへの安全指導1
		子どもへの安全指導2
10	学校の安全対策	学校の安全対策
11	ネット犯罪に遭わないための知恵	ネット犯罪に遭わないための知恵
		ネット犯罪を受けた場合の対応
12	子どもを守る行政の取り組み	子どもを守る行政の取り組み

①-3. Vol. 2 テキスト対応ビデオの制作

防犯リーダー指導力アップテキスト (Vol. 2 テキスト) に対応したビデオは、Vol. 2 テキストの内容に沿って、ナレーション中心にし、イラスト、図面、写真、事例、インタビュービデオ等を配置し、わかりやすい映像になっている。

[シナリオの例]

		# 2 環境に応じた防犯対策	4分35秒
No	概略	ナレーション	画像
1	『環境の種類』 30秒	<p>環境に応じた防犯対策を練る上では、ご覧のような環境の分類を考えることができます。</p> <p>〔駅周辺や商店街〕〔集合住宅〕〔駐車場や駐輪場〕〔住宅街〕</p> <p>例えば、駅周辺と住宅街では犯罪の質や発生しやすい場所も違ってきます。それぞれの特徴と犯罪の種類、防犯対策を立てる上で気をつけるポイントを見てみましょう。</p>	<p>★ イメージ写真で構成したフリップ</p> <p>〔駅周辺や商店街〕〔集合住宅〕</p> <p>〔駐車場や駐輪場〕〔住宅街〕</p>
2	〔駅周辺や商店街〕 1分	<p>駅周辺や商店街や繁華街は人が多く集まる場所です。</p> <p>買い物や通勤をする時間帯は人が増え、犯罪者も周囲に溶け込み、身を隠しやすくなります。</p> <p>そのため子どもが犯罪に巻き込まれていても周囲が気づかない等、死角が生まれやすくなります。</p> <p>また建物の間などは人目につかない場所もあります。</p> <p>このような環境で子どもを守る対策としては、子ども110番の家等、店舗や商店街の協力を得て、子どもが逃げ込める場所を多く確保することが大切です。</p> <p>一方、周辺のひと気の少ない路地などは、犯罪が起きやすい傾向にあります。その対策としては、清掃活動や美化活動等の環境整備や定期的なパトロールをすることによって人の目が届いていることをアピールすることが大切です。</p> <p>また最近では防犯カメラを設置している商店街や繁華街も増え犯罪抑止に役立ってきています。</p>	<p>★ 駅周辺繁華街写真</p> <p>★ 子ども110番の家 イラスト</p>  <p>★ 清掃活動イラスト</p>  <p>★ 防犯カメラ設置写真</p>

②第三者評価を目的とした防犯リーダー指導力アップ地域自立型研修会の結果

結果の詳細については、平成22年11月30日に提出済みの「第三者評価を目的とした実証実験評価を含めた最終報告書」を参照していただくこととし、以下にその概要を記す。

・ITに慣れ親しんでいる父親の参加が目立った

一般的に学校で実施される保護者対象の防犯講習などに参加するのは母親がほとんどで、父親の参加は珍しい。しかし今回の研修会は、現リーダーたちが意図して企画した通り、「防犯指導支援システム」というITツールを防犯の取組に絡めたことで、興味をもって集まってくれた参加者の半数は父親(祖父を含む)であった。これは次世代リーダー育成の十分な足がかりとなったと言える。

参加した父親たちは自由自在に「防犯指導支援システム」を使いこなし、様々な視点から有用な意見・要望を述べてくれた。例えば、「防犯指導支援システム」の防犯特性分析機能のコンセプトについては理解を示した上で、データの有用性・信憑性・充実度・今後の更新についての質疑応答が活発に行われた。

・地域自立型研修会が「短期間で実施可能」であることが証明された

今回の一連の研修会の企画・準備・運営については、すべて地域のリーダーたちに任せられた形で実施した。本プロジェクトとしては、教材・支援システムの提供、及び整備されたマニュアルの提供を行った。マニュアルについては、支援システムの全ての機能に関する操作マニュアルの他、研修会全体の企画・準備・運営の流れを示したマニュアルの準備もした。テキスト教材に関しては、指導者(講師)用解説書も添付し、参照して講義を行ってもらった。

これにより、親切でわかりやすいマニュアルさえ提供すれば、教材・支援システムを使って、地域の方だけで自立した研修会を実施することができるということがわかった。尚、今回は領域マネジメントグループからの指示による非常に短期間で企画・準備・実施となってしまったために、現場の方々には多大な負担をかけてしまった。これが原因で「リーダーの負担がかなり大きかった」という声もあがっていたが、逆に言えば、リーダーの負担が大きかったものの、これだけの短期間で、これだけの研修会を企画・準備・実施できたことは、大きな成果だったと言える。

今後の課題としては、地域の方々の負担をより軽減するための工夫が必要であるということがわかったため、マニュアルなどに反映させていく。

・社会実装に向けての提案(ヒント)をいただくことができた

本プロジェクトが提案する「地域自立型研修会」やそれを支える教材群・支援システムについて、竹の台地域のリーダーたちから一定の理解と評価を受けることはできたが、その先にある「社会実装」に向けては、疑問や不安の声もあった。しかしこれに対し、地域の中からヒントになるような提案もいただいた。そのほとんどは、本プロジェクトにおいても既に研究を進めていることでもあり、その裏づけとなった。

・研修の波及効果(「リーダー育成」の足がかり)

9月20日の研修会における「防犯ブザーの効果と留意点」というワークショップ形式の講義が好評であったため、10月20日に開催される「第2回 竹の台子ども安全フォーラム」において、同じ講義が導入された。具体的には、保護者や地域住

民を対象に、5種類の防犯ベルを実際に使い、音や操作性を比較したり、防犯ベルの使い方の注意点などについて考えたりするワークショップで、講師は9月20日の研修会に参加した保護者有志と青少年育成協議会役員であった。つまり、本プロジェクトの教材及び支援システムを活用した地域自立型の子どもを守る防犯リーダー指導力アップ研修会を行ったことで、これに参加した方が、次の研修会を企画し、さらには講師役を務めるという結果を導き出したことになる。これはまさに「リーダー育成」の足がかりとなったと言える。

また、先述した「第2回 竹の台子ども安全フォーラム」に先立ち、10月10日には「竹の台ふれあいまつり」にて「子ども安全コーナー」が設置され、一般地域住民に対し、研修の紹介、テキスト等の展示がなされた。この企画責任者及び講師役も、9月20日の研修の参加者である。

③第三者評価者による評価シート集計結果

第三者評価者による意見の詳細については、平成22年11月30日に提出済みの「第三者評価を目的とした実証実験評価を含めた最終報告書」を参照していただくこととし、以下には、評価シート記入による評価の集計結果を記す。

○設問1について

→評価者全員が、「地域自立型研修会の実施の社会的意義を感じた。」と回答

『本プロジェクトの教材および支援システムを活用した「地域自立型研修会」について、社会的意義があると感じたか否か』の設問に対し、評価者全員が、『1. 強く感じた』および『2. どちらかといえば感じた』と回答している。その理由として、「客観性あるデータで地域特性・必要な対策・担い手のミッションなどが呈示でき、リーダー層の共通認識を作る手段となりえる。」「防犯のとっかかりが分からない地域が多いので、地域防犯を進める過程で非常に有効であると考える。」等の意見が挙げられた。

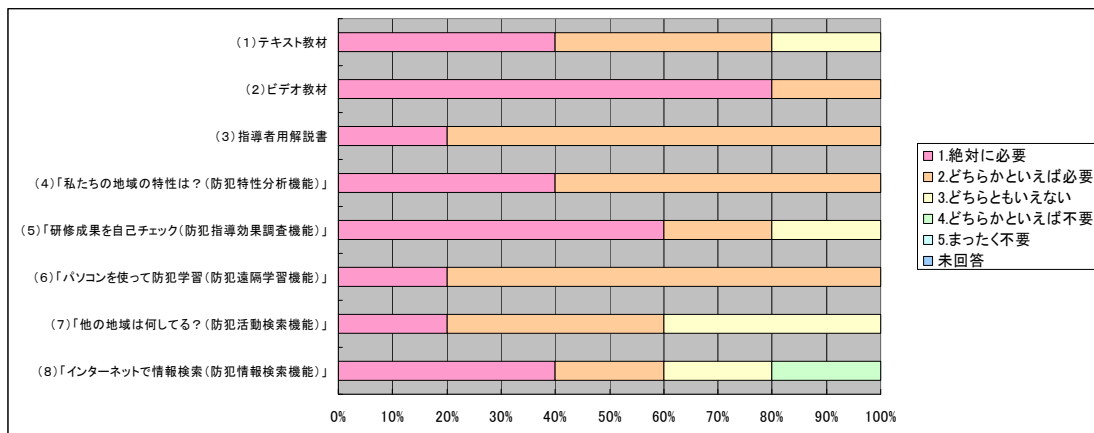
これにより、本プロジェクトの教材および支援システムを活用した「地域自立型研修会」は、安全安心まちづくり等に積極的に取り組んでおられる行政レベルの有識者の方々に、社会的意義があると認められたと言える。

尚、一方で「実装に向けては、コーディネータの在り方などに未完成な部分もある。」「教材だけに頼る研修会であっては、真の防犯はできない。」「成果をあげるための工夫も地域ごとで考える必要があり、それは難しいのではないかと思う。」といった意見も挙げられた。前者の意見については、コーディネータの能力規準・基準の開発を進めていく中で明確にする計画であったが、本プロジェクトの研究開発期間短縮により、コーディネータに関するすべて研究開発は中止とした。後者については、「地域自立型研修会を実施する過程こそが大切である」ということを、「子どもを守る防犯リーダー指導力アップ研修会 導入の手引き」に示すこととする。

○設問2について

→ほぼすべての教材および支援システムについて必要性が認められた。

設問2 項目(1)から(8)について、回答数をパーセンタイルにして示す。



地域自立型研修会を実施する上で、子どもを守る防犯リーダーのための各種教材(1)～(3)、防犯指導支援システムの各種機能(4)～(8)について、どの程度必要性を感じるかを尋ねた結果である。

各種教材および指導支援システムの各種機能について、『絶対に必要』または『どちらかという必要』とする回答は50%超におよび、本プロジェクトの成果は地域の防犯活動のための防犯リーダー育成について重要な役割を果たし得る可能性があると考えられる。

特に、「ビデオ教材」「指導者用解説書」「防犯特性分析機能」「防犯遠隔学習機能」については、評価者全員が、『絶対に必要』または『どちらかという必要』という肯定的回答であった。中でも、ビデオ教材の評価は高く、5名中4名が『絶対に必要』と回答している。

○設問3について

今後、竹の台地域以外で本プロジェクトの教材および防犯指導システムが活用されることを想定した場合、一定の研修効果が期待できるか否かについて尋ねた。
→防犯リーダーの指導力向上や、リーダーの円滑な継承については、本プロジェクトの成果物だけでは解決は難しいが、地域防犯の見直しや継続・発展については、評価者全員が「期待できる」と回答。

(1) 子どもを守る防犯リーダーたちの指導力向上を期待できるか否か

半数以上の評価者が「どちらとも言えない」という評価であった。この理由については、「防犯リーダーたちの指導力」は、研修のみで向上するものではなく、地域の防犯に対する相対的なニーズ(潜在的なものを含め)に大きく依存するものであるという意見などが出された。

(2) 子どもを守る防犯リーダーの円滑な継承ができるか否か

「どちらかと言えばそう思う」「どちらかと言えばそう思えない」が2名ずつ、「どちらとも言えない」が1名という、肯定的意見と否定的意見が半々の評価であった。否定的な意見の理由としては、「継承については他の課題が根深い」「継承には研修会の実施ではなく他の要因が大きい」というほぼ同じ内容の理由が挙げられていた。ここで出された「他の課題」「他の要因」というのは、「防犯リーダーの指導力向上を目的とした研修会の実施だけでは解決することのできない、社会的かつ複合的な要因」で、例えば、「高齢

化社会」「地域の慣習」「地域内の組織構造」などではないかと考える。

肯定的な意見の理由としては、「リーダーの継承は難しい地域課題であるが、系統的な防犯学習教材や支援システムにより、その継承が期待できる」ということが挙げられていた。

(3) 地域の防犯活動の見直しと、その継続や発展が期待できるか否か

評価者全員が、『強くそう思う』または『どちらかといえばそう思う』という肯定的回答であった。特に、半数以上の評価者が『強くそう思う』と回答しており、「情報の共有促進が図られる意味で非常に重要なポリシーを持っている」と高評価を得た。

○設問4について

→評価者5名中4名が、「自分の地域にも導入してみたい」と回答

『ご自分の地域に、本プロジェクトの教材および支援システムを導入してみたいと思われたか否か』の設問に対し、5名中4名の評価者が、『1. 強くそう思う』および『2. どちらかといえばそう思う』と回答している。特に、本プロジェクトにおいては、行政職員を「子どもを守る防犯コーディネータ」の担い手として想定しているため、「地域ニーズに対応可能」「行政の地区担当者の強力なツールとなる」など積極的なご意見をいただいた岩三沢市、神戸市の行政に対しては、社会実装の足がかりとして、次年度には具体的にご相談させていただき、ご協力をお願いしたいと考えている。

尚、「どちらかといえばそう思えない」と回答した静岡県庁の職員である評価者は、「静岡県においては、必要十分な防犯講習が実施されている」ということが理由であった。

○設問5について

→評価者全員が、「社会実装への協力をしたい」と回答

『本プロジェクトの成果を今後、社会で実装していく際に、行政・NPOの立場として協力したいか否か』との問いに対して、評価者全員が肯定的回答をしている。しかも、5名中4名が「強くそう思う」という回答であった。

具体的な記述としては、「ソーシャルビジネスとしての展開は必須」「拡がりのあるシステム実装には、行政やNPOによる補完が欠かせない」等が挙げられた。

④第三者評価会議の結果(成果と課題)

本プロジェクトの根本的な使命は、社会的な課題の理解に基づいて、問題を具体的に解決する術を提案することであると考え、これまで研究開発を進めてきた。そして提案すべき術は、大きく分類して以下の2点である。

1. 社会的現場で実際に活動者たちが困っていること(ニーズ・求め)に対する解決策を提案すること。
2. 現場レベルでは気づくことのできない、そのまま放置しておけば現場の人たちが気づくことができないかもしれない課題について、より俯瞰的に、新たな課題を提示し、その課題を解決するためのアプローチの方法を提案すること。

そして、より本質的な問題解決となるのは後者であると考えている。

今回の第三者評価結果において、評価者：甲群（現場の防犯リーダーたち）による評価と、評価者：丙群（防犯に関して社会的評価の高い成果をお持ちのコーディネータレベルの行政職員）による評価に差異があったのは、上記の①②のそれぞれの視点による評価であったからであると推察できる。

まず、1の視点による評価の結果、以下のような成果と課題が明確になった。

成果1. 現場の視点に立ったマニュアル整備により、地域における自立型研修会を実施することが可能であると実証された。

成果2. 子どもを守る防犯リーダー指導力アップのための地域自立型研修会を実施したことにより、現・防犯リーダーたちが、次世代リーダー育成の必要性を改めて認識した。

成果3. 防犯指導支援システムというツールにより、今まで防犯活動への参加に比較的消極的であった保護者層に対し、防犯活動への参加のきっかけとなる可能性を見いだすことができた。

成果4. 子どもを守る防犯リーダー指導力アップ研修会の参加者たちが自主的に、一般ボランティアや保護者に対して講師役を担い、講習を行った。

課題1. 研修会世話役や、講師役のリーダーの負担軽減

課題2. データベースのさらなる充実と信頼性の確保

→犯罪発生に関する詳細なデータは、警察からはなかなか得られない。得られるとしても都道府県レベルの統計資料であり、地域の方々が活動している地域のスケールと一致しない。また、数として多く得られる新聞データを使った場合、子どもの防犯に関する記事以外に何か大きな事件が発生してしまうと、子どもの防犯に関する記事は掲載されなくなる。但し、過去5年という大きなスケールのデータを収集することで、安定的なデータになるのではないかと期待して収集した。さらに地域特性に依存するものとして、地域の「安全・安心メール」というものを使っている。安全・安心メールもいろいろな特徴を持っており、数として異常に多いのは窃盗（特に自転車窃盗など）である。一方で、子どもの犯罪に関わることであっても、加害者が身内である場合は、安全・安心メールには掲載されない場合がほとんどである。そういったものを警察の統計と何とかマッチングさせたい、と考えている。安全・安心メールのエリアを警察の統計と同じエリアにし、おおよそ同じような数にあるのはどれなのかということ踏まえ、窃盗関連のデータを減らしたり、加害者が身内であるケースを合うように合わせたりする計画である。つまり、安全・安心メールで出されているものだけではないデータをきちんと作って、安全・安心メールのデータが統計的に有意になるように工夫する。

また、地域を限ってしまうと犯罪の数は少ないので、統計的に有意なことは当然言えない。そこで、自分たちの地域と似ている特徴を持つ地域で過去にどういった犯罪が起こっているかを検索することで、犯罪の数を統計的に増やし、安定的な議論をできるようにすることができないかということを探索中である。

これらの説明が、現場の方々に不十分であったために、「自分たち

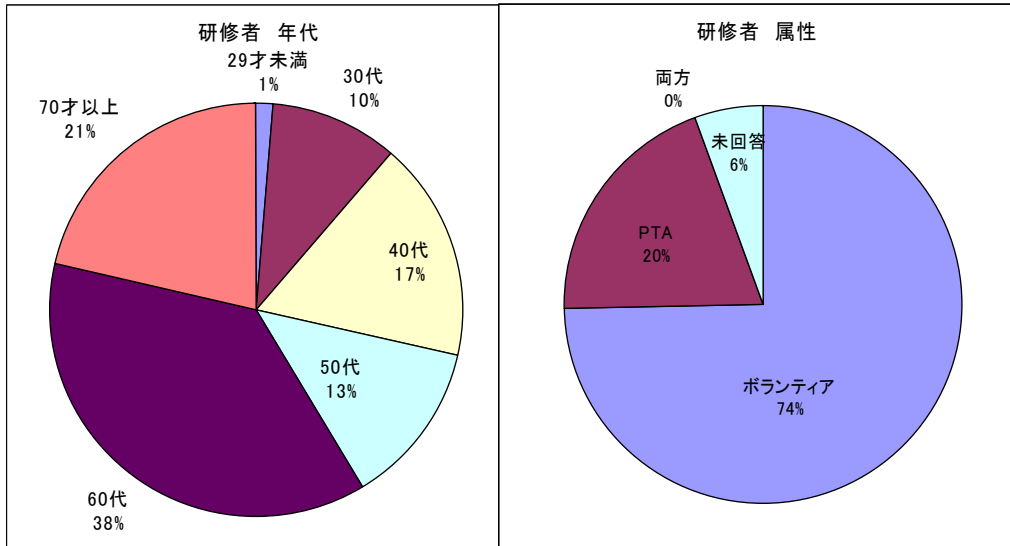
が発信した安全・安心メールのデータだけで地域特性を議論されたら、自分は非常に不安だ」という意見があった。そこで、後日改めて電話インタビューにて説明し、ご理解いただくことができた。

- 次に、2の視点による評価の結果、以下のような成果と課題が明確になった。
- 成果1. 行政レベルの有識者の方々に、本プロジェクトの基本コンセプトを十分にご理解いただくことができ、賛同を得ることができた。
 - 成果2. 今後も、何らかの形でご協力をいただけるとお約束いただけた。これは、社会実装に向けての大きな一歩であると考えている
 - 課題1. 社会実装に向けて、「子どもの防犯」だけに特化したものではなく、地域全体の活動に役立てる仕組みを考えていく必要がある。
 - 課題2. 本プロジェクトの成果を周知・広く普及させていく術を考える必要がある。

尚、当初の計画では、今年度までに防犯指導支援システムのおおよその仕組みを作った上で、現場の人たちに実際に活用していただき検証をして、修正・改善のためのインプットをいただく予定だった。しかし、領域からの指示により、防犯指導支援システムの評価段階ではない状況で第三者評価を受けなければならなくなってしまったことは非常に不本意であり、このような中途段階のシステムの活用を余儀なくされた地域の方々の負担や困惑も領ける。また、防犯指導支援システムについては、今年度9月末日付けでRISTEXからの予算を差し止められている。しかし、本プロジェクト全体の基本理念において、防犯指導支援システムは必要不可欠であることから、今後、どのようにして、防犯指導支援システムのさらなる改善を進めるか、本プロジェクト内で検討中であり、別の機関に研究申請をして認めてもらうよう尽力する計画である。

⑤調査対象4地域での地域自立型研修会における教材評価アンケート結果

今年度は、足立区西新井第一小学校区を除く3地域で4日間、71名の方々が研修会に参加した。この71名に教材に関するアンケート調査を行った結果が以下の通りである。

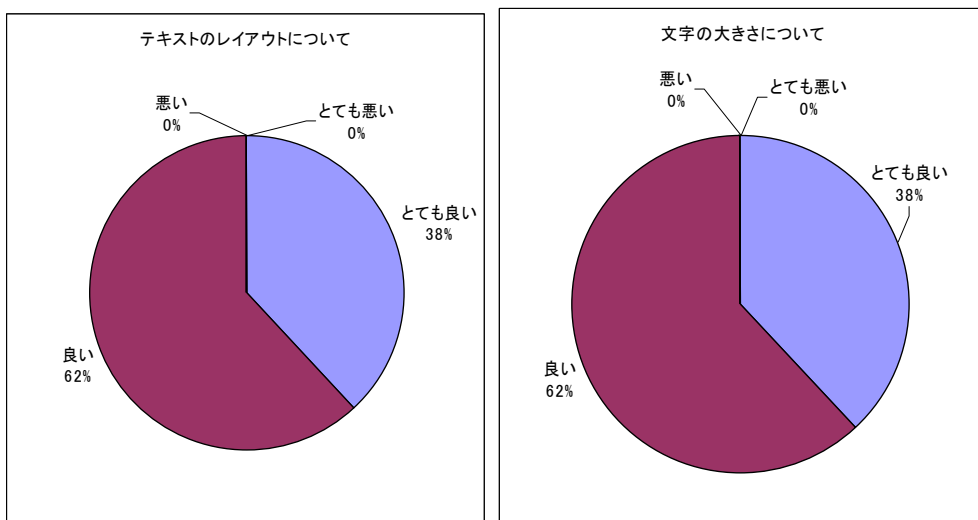


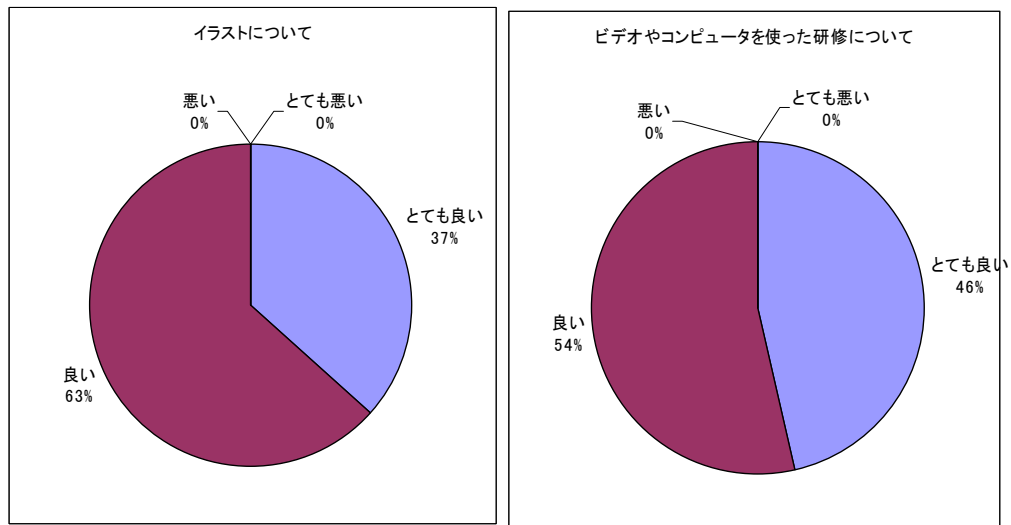
- ・ 防犯活動に関する意識レベル (0 = ない ~ 6 = リーダーレベル)
 平均3.37 (意識のレベルは中間である)

- ・ 知識レベル (内容について知っていたか)
 1 = 知らなかった ~ 3 = 半分知っていた ~ 5 = すべて知っていた
 平均 3.1 (知識のレベルは中間であった)

↓ 研修後

- ・ 理解レベル (理解しやすかったか)
 1 = 難解だった ~ 5 = 理解しやすかった
 平均 4.2 (教材により、理解がある程度深まったと言える)





教材については、非常に好評であったと言える。特に、ビデオやコンピュータを使った研修についての評価は非常に高かった。

以下、具体的な意見の抜粋

テキストについて

- ・新しい知識もテキストがなければ忘れてしまうが、テキストがあることで思い出す。
- ・カラー分けしてあり、とてもわかりやすかった。
- ・単元で少しずつ内容が分けてあるので、読む意欲がわいた。
- ・イラストの配色がとてもよい。
- ・レイアウトは説明文とイラストがマッチしている。
- ・文字のポイント字体も良い。
- ・字が大きくて読みやすかった。
- ・イラストもたくさん挿入されていてわかりやすい。
- ・全体的にかなり洗練されたレイアウトでわかりやすい。
- ・老眼が進み始めた私にとって、読みやすい文字の大きさだった。
- ・イラストは場面に応じていてわかりやすい。
- ・テキストはとてもわかりやすく、子どもの防犯について今後の活動に参考になる。
- ・配色には更なる発展を！
- ・テキストは一部抜粋（配布）が可能であれば、二次的展開が可能。活動リーダーの裾野を広げて、地域全体での取組となるために活動したい。

ビデオやコンピュータを使った研修について

- ・結果がグラフで即出るので非常に良い。
- ・映像で復習することができてよかった。
- ・わかりやすくてよかった。

- ・ 苦手であるので講義を増やすこと。
- ・ 理解できました。
- ・ パソコンをあまり使っていないので、少しとまどった。
- ・ ビデオやコンピュータなど、大事なところで視覚に訴えた内容がよかった。
- ・ 百聞は一見にしかずで、よくわかった。
- ・ テーマから言って仕方ないが、やはり堅苦しいイメージが強い。テレビCMのような手法も必要。

研修会に参加した感想

- ・ 普段気にしていなかった「危険」がたくさんあり、とても有り難く勉強になった。自分の子どもだけではなく、地域の近所の子どもたちにも話して、教えてあげられるようになれば良いなと思った。
- ・ 大人の防犯を主に今まで活動してきたので、会に戻って今日学んだことを話し、情報の共有に努める。みんな盛り上がったが、「鉄は熱い内に打て！」である。
- ・ ネット犯罪については、もっと知識を深め、情報を集めて勉強する必要があると思った。

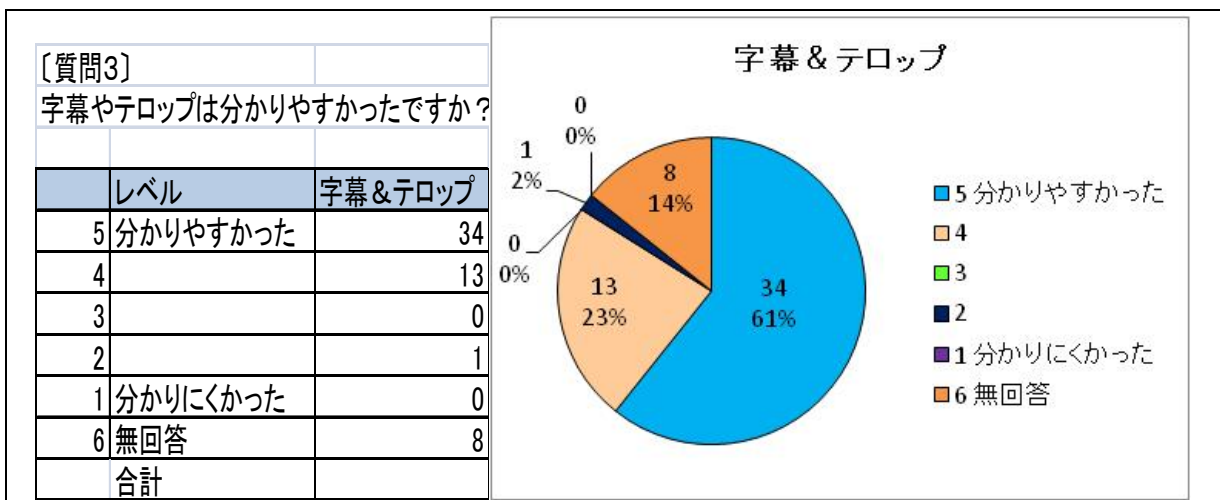
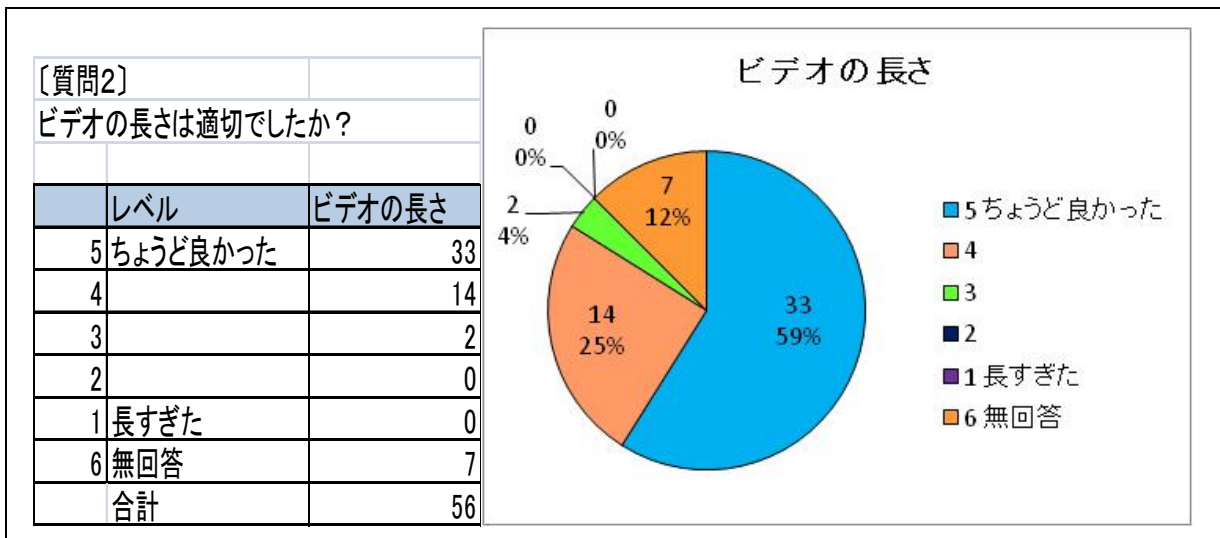
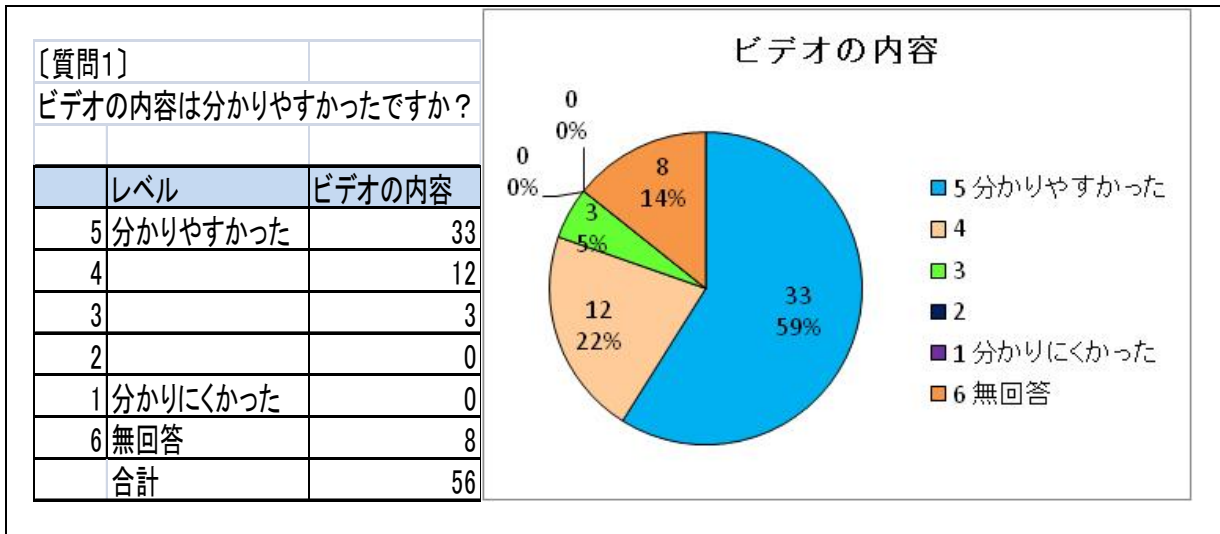
⑥教材Gフィールドでの研修会における教材評価アンケート結果

○1回研修会 藤城地域研修会 平成22年7月17日(土)

本研修会では、Vol.1テキスト対応ビデオ(平成21年度制作)12本の評価が中心となった。評価は、14人を3チーム(A, B, C)に分けて、それぞれ4本ずつ担当した。そのため12本のビデオを延べ56人で評価したことになる。

ビデオタイトル	1. あいさつ運動の効果と留意点	Aチーム(5人)
	2. 防犯パトロールの進め方	Aチーム(5人)
	3. こんな子が狙われている	Aチーム(5人)
	4. 防犯ブザーの効果と留意点	Aチーム(5人)
	5. 家の中でも気をつけて	Bチーム(5人)
	6. どこが安全? どこが危険?	Bチーム(5人)
	7. 地域安全マップ	Bチーム(5人)
	9. 学校での防犯教育	Bチーム(5人)
	10. 地域での組織作りと連携	Cチーム(4人)
	12. 子ども110番の家	Cチーム(4人)
	13. 防犯活動の推進	Cチーム(4人)
	16. 広がるネット犯罪	Cチーム(4人)

評価方法は、3つの質問(ビデオの内容、ビデオの長さ(時間)、ビデオの字幕やテロップ)に対して、5段階評価で回答してもらった。その結果の集計表と円グラフは下記のとおりである。



上記の結果から3つの質問ともに8割以上の割合でいい評価を得ている。わかりや

すく具体的な内容になっていることが評価されていることが分かった。自立型研修する上でいいツールの一つといえる。

自由記述では主に次のようなコメントがあった。

(コメント1) 防犯パトロールの留意点がよく分かりました。毎月パトロールに参加していますが、どういったところに気をかけるのかしっかり把握できていない点もあったと思います。今後の活動に役立てればと思います。

(コメント2) 目と耳から入る情報は頭に残る。ストレートに入ってくると思いました。犯罪者の狙われやすい子どもの様子が具体的によく分かりました。

(コメント3) 防犯ブザーは子どもに持たせるだけではいざという時の防犯に役立てず、どのように使うか、家庭や学校での指導が大切なんだということがよく理解できました。テキストと副読プリントを併せて目を通すとよく分かりました。ビデオも適切な時間でまとまっていると思います。

(コメント4) インターフォン・電話に出ないように指導していましたが、合図を決めたり、留守電に呼びかけたりすることはしなかったもので、ぜひ導入したいと思います。現実の犯罪者による手口や実際に子どもだけで在宅時に問題(犯罪や火災)が発生したときを想定した指導方法を教えていただければありがたいです。

(コメント5) 電話での対応をメモして貼っておく、連絡先を書いて貼っておく等、より具体的で分かりやすかった。母親に見せるべきだと思う。

(コメント6) 説明が分かりやすい。犯罪発生件数の表があり、説得力があった。テキストを読んだ後、ビデオを見たらより理解できた。

(コメント7) 一般的な防犯教育について知ることができた。我が地域の学校の避難訓練に参加していないので、今後は学校も地域に参加を呼び掛けてほしい。

(コメント8) 重要となるキーワードがテロップで紹介されており、理解しやすかった。

(コメント9) 子ども110番の家に子どもが来たときの対応の説明が分かりやすく良かったです。110番の家の条件の話のところはテロップがあつて良かったです。

(コメント10) 防犯ボランティアの立ち上げ方法が具体的に詳しく紹介されており、有効に活用されると思う。

○第2回研修会 苫小牧地域研修会 平成22年8月1日(日)

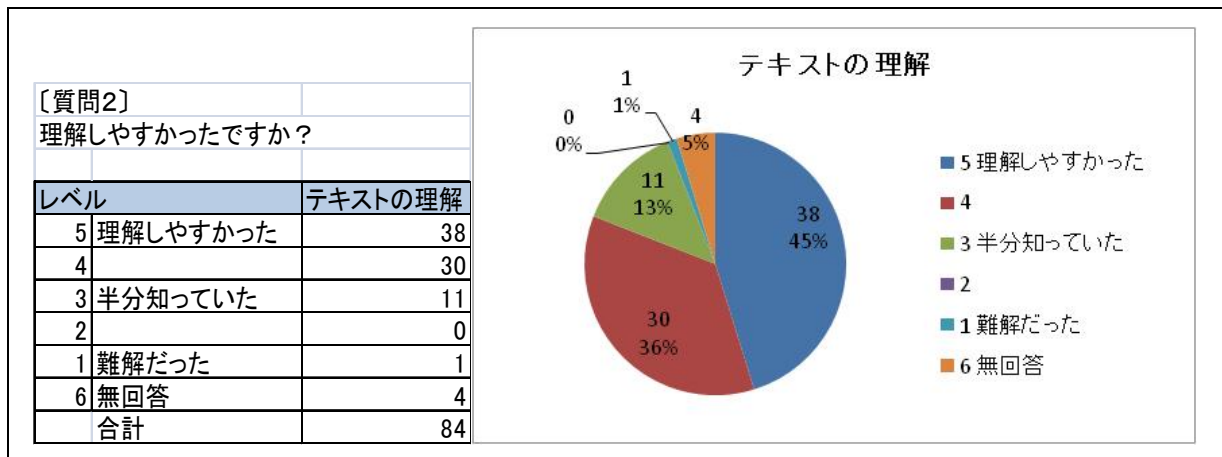
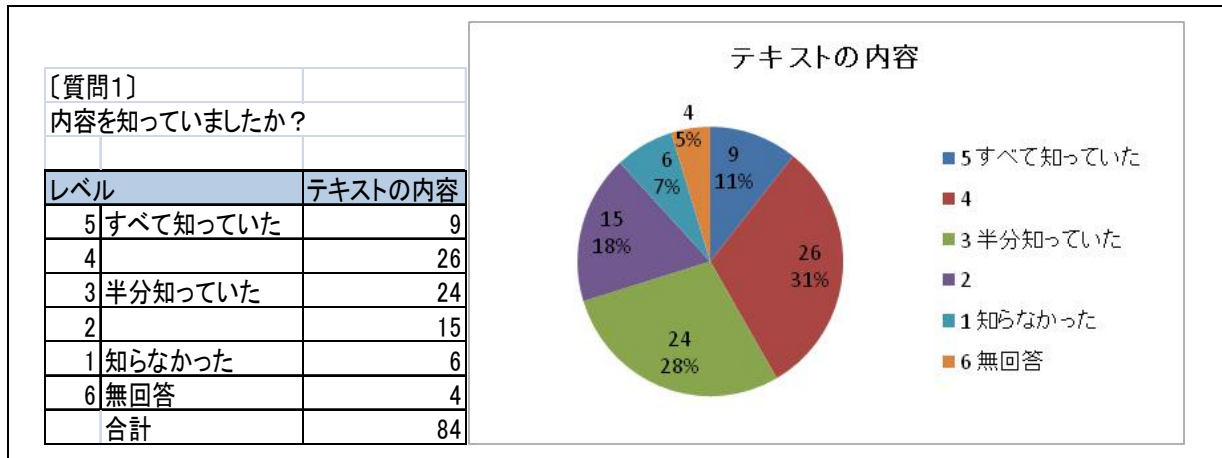
本研修会では、Vol.1テキスト(平成21年度開発)とビデオの評価が中心となった。評価は、21人で研修に使った4つの項目だけを評価の対象にし、一人一人がその項目を評価した。そのためテキストは延べ84人で評価したことになる。

評価したテキストの項目タイトルは次の4項目である。

Vol.1テキストの評価

- テキストの章タイトル
2. 防犯パトロールの進め方
 3. こんな子が狙われている
 13. 防犯活動の推進
 16. 広がるネット犯罪

テキストの評価方法は、2つの質問（テキストの内容、テキストの理解）に対して、5段階評価で回答してもらった。その結果の集計表と円グラフは下記のとおりである。



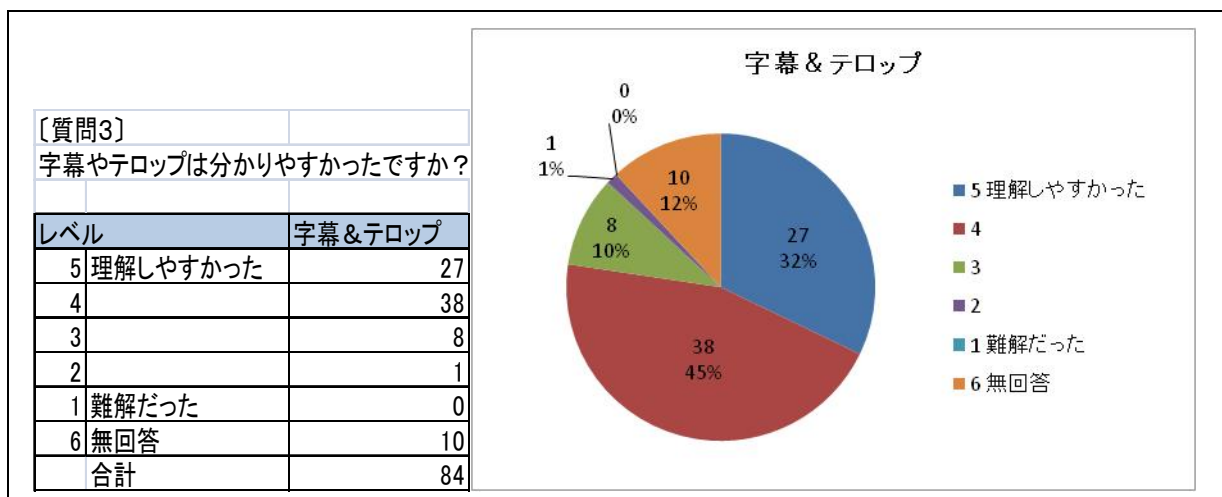
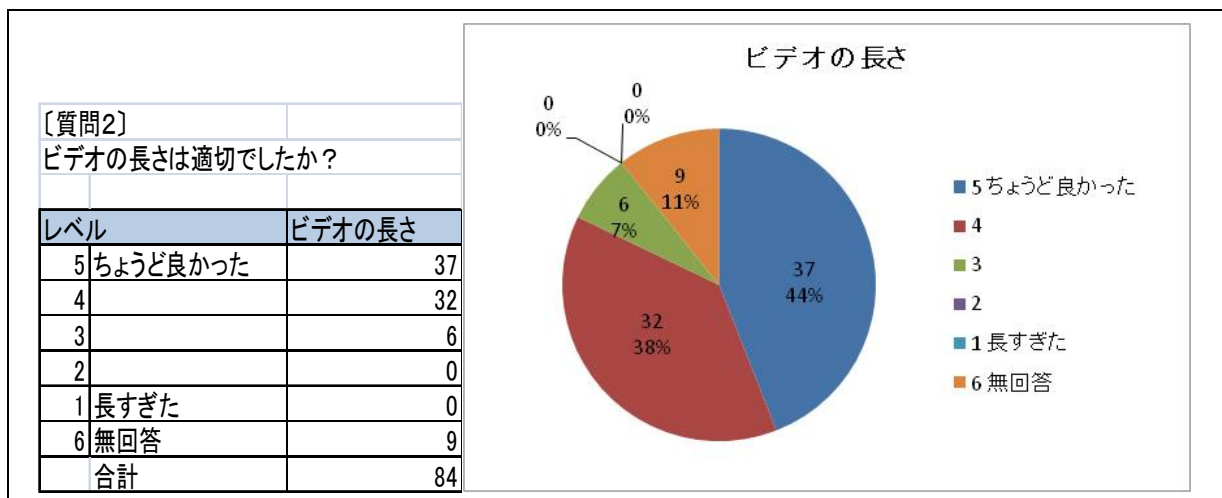
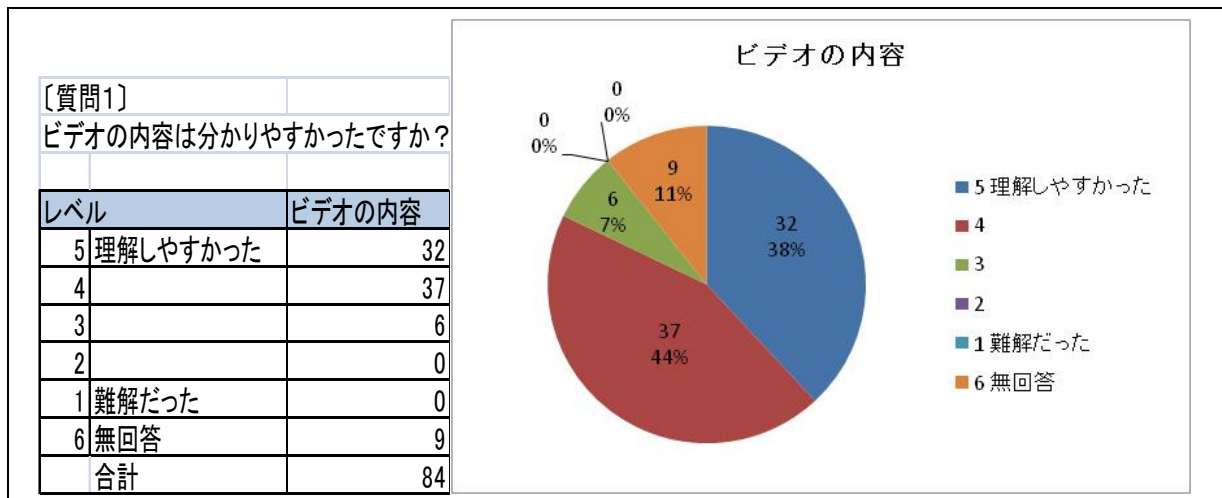
テキストの内容の質問は、研修前に知っていたかどうかであり、テキストの理解の質問は研修で理解しやすかったかどうかである。ほぼ知っていたが40%程度あったのが、70%近くの人が理解しやすかったと答えている。研修で理解できてきたことは研修の意義はあるといえる。

次に評価したビデオのタイトルは次の4項目である。

Vol.1 テキスト対応ビデオの評価

- ビデオタイトル
2. 防犯パトロールの進め方
 3. こんな子が狙われている
 13. 防犯活動の推進
 16. 広がるネット犯罪

ビデオの評価方法は、テキストの評価と同じように、3つの質問（ビデオの内容、ビデオの長さ（時間）、ビデオの字幕とテロップ）に対して、5段階評価で回答してもらった。その結果の集計表と円グラフは下記のとおりである。



上記のアンケート集計結果から3つの質問ともほぼ8割の人がいい評価を判定している。ビデオ教材は研修だけでなく、自己学習においても有効であることが分かった。自由記述では、次のような代表的なコメントがあった。

- (コメント1) ネット犯罪については大変勉強になりました。これからも学んで行きたいしPTAや地域の方にも学んで行く機会をつくって行きたいともいます。
- (コメント2) テキストとビデオの併用が良かった。広がるネット犯罪最新の情報が得られたことが良かった。
- (コメント3) 頭の中で理解していても、いざ説明してくださいと言われるとできないということに気がつきました。今日の研修と受講して少し説明ができるようになったともいます。ネット犯罪については子どもたちにビデオを見せたいなどと思いました。

○第3回研修会 藤城地域研修会 平成22年11月27日(土)

本研修会では、Vol.1テキスト(平成21年度開発)の評価が中心となった。評価は、12人で研修に使った3つの項目だけを評価の対象にし、一人一人がその項目を評価した。そのためテキストは延べ36人で評価したことになる。

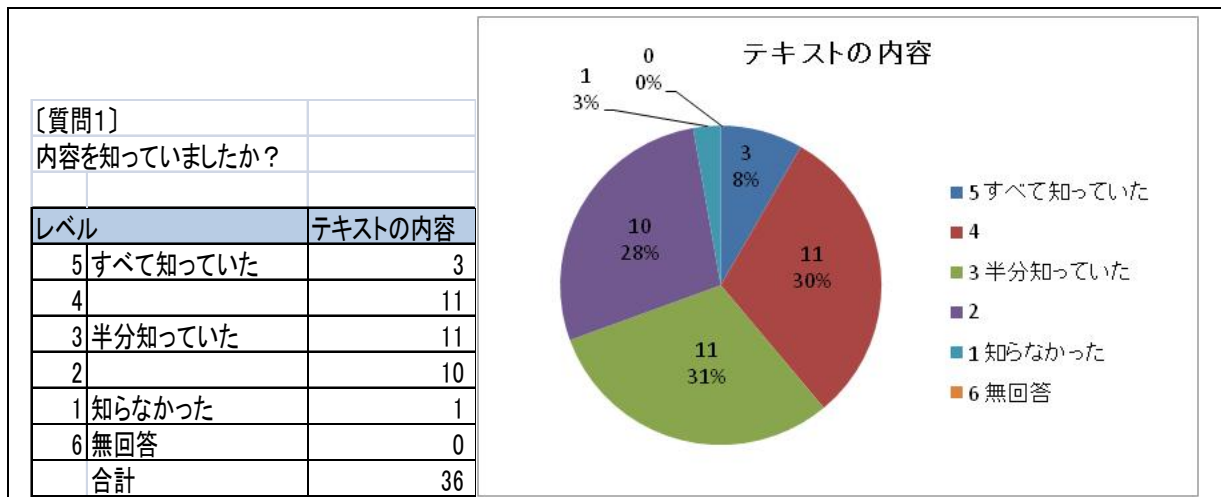
評価したテキストの項目タイトルは次の3項目である。

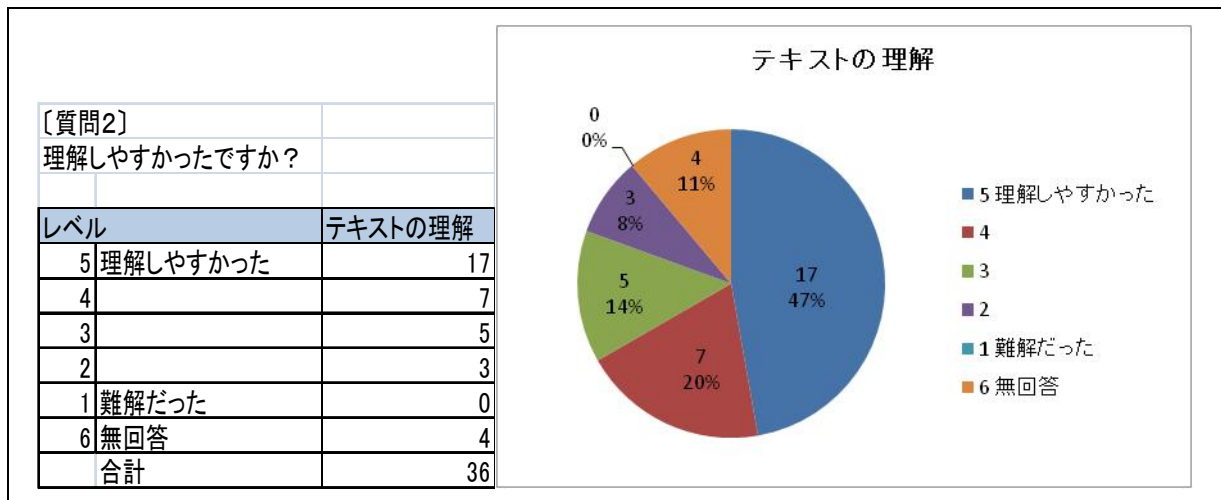
Vol.1テキストの評価

- テキストの章タイトル 6. どこが安全? どこが危険?
 9. 学校での防犯教育
 19. 防犯器具の使い方

テキストの評価はテキストの内容と理解、全体的なことの質問で確認した。

最初の評価方法は、2つの質問(テキストの内容、テキストの理解)に対して、5段階評価で回答してもらった。その結果の集計表と円グラフは下記のとおりである。





上記のアンケート結果から、知っていたが38%であるが、知らなかったが28%もある。研修では、理解しやすかったが47%とほぼ半数になっている。やはり研修の効果はあるといえる。

自由記述では、次のようなコメントがあった。

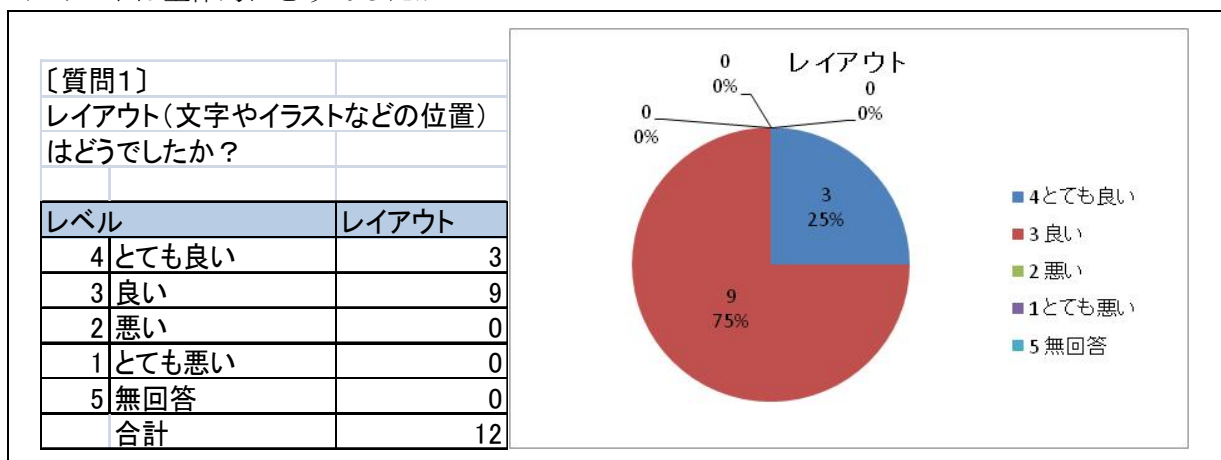
(コメント1) 新しい知識が得られたので大変為になりました。今後は各自治体や地域のボランティアなどが具体的な活動内容や行っている成果なども取り上げていただければと思います。

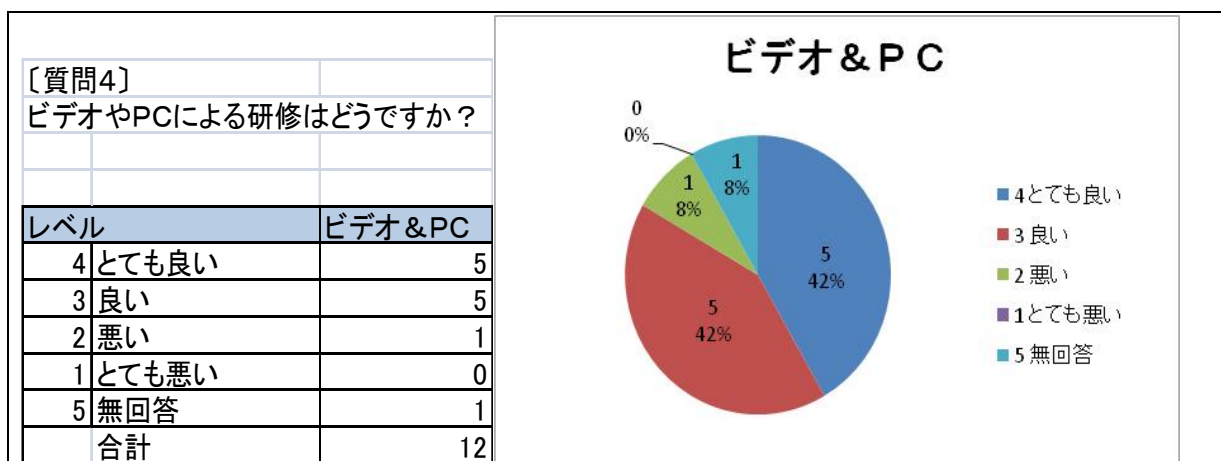
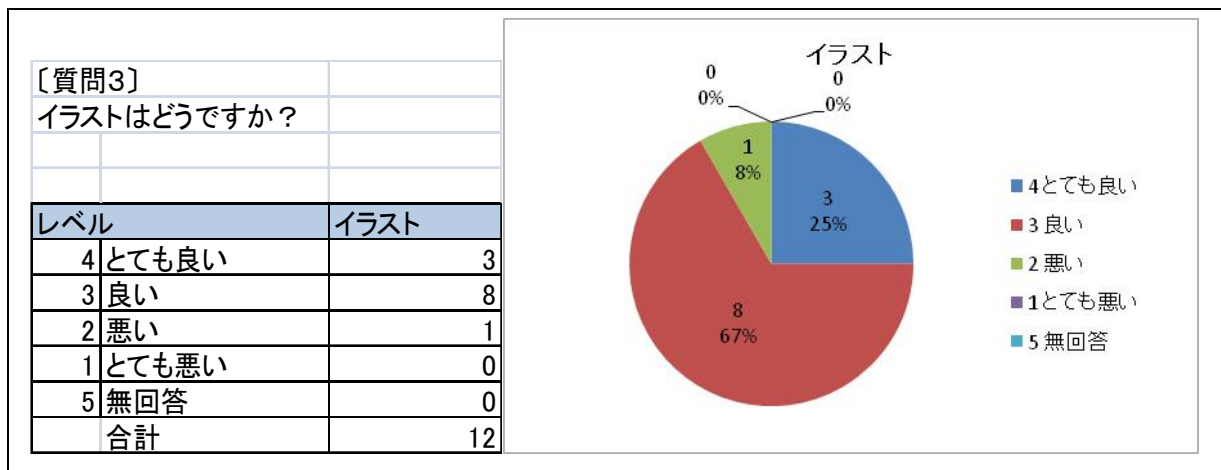
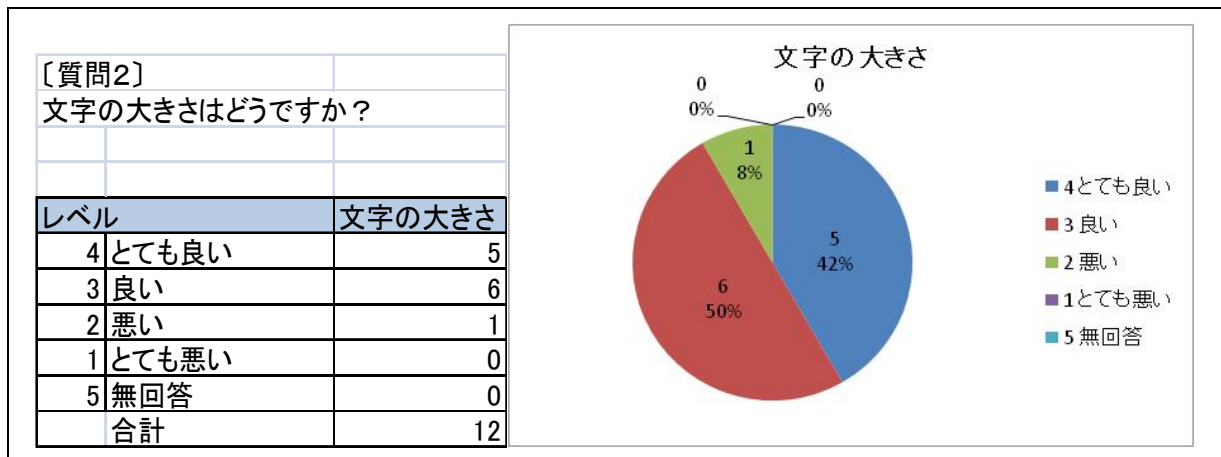
(コメント2) かなり充実していると思う。機会がある毎にお話したいと思う。突然の講師も非常に良かった。

(コメント3) 防犯機器の使い方は知らないことがあったのでビデオを見ることでよくわかった。また、地域の行事では防犯の具体的な訓練がなかったので改めて重要性がわかった。

次に、テキストの全体的なことについて、12人に4つの質問（レイアウト、文字の大きさ、イラスト、ビデオとPC）をした。それぞれ4段階で答えてもらった。

テキストは全体的にどうでしたか？





上記のアンケート結果から、全体的にテキストのでき具合はよいと答えている。また、ビデオとPCによる研修についても違和感はなく、よいと答えている。このことからビデオの有効性はもちろんのこと、PCを使うことも研修の効果はあるといえる。

○第4回研修会 苫小牧地域研修会 平成22年12月11日(土)
 本研修会も、第3回研修会と同様にVol.1テキスト(平成21年度開発)の評価が中

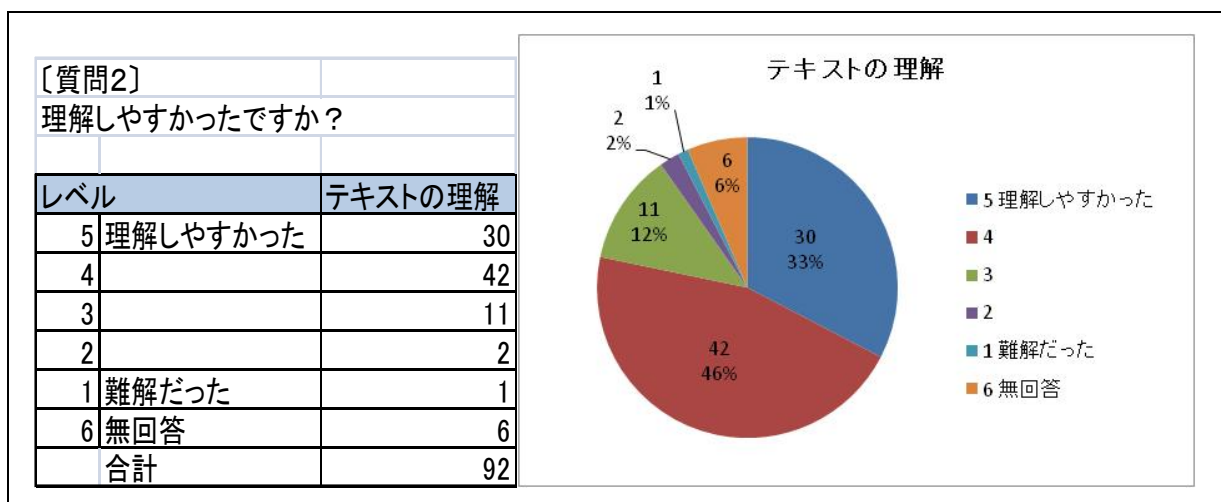
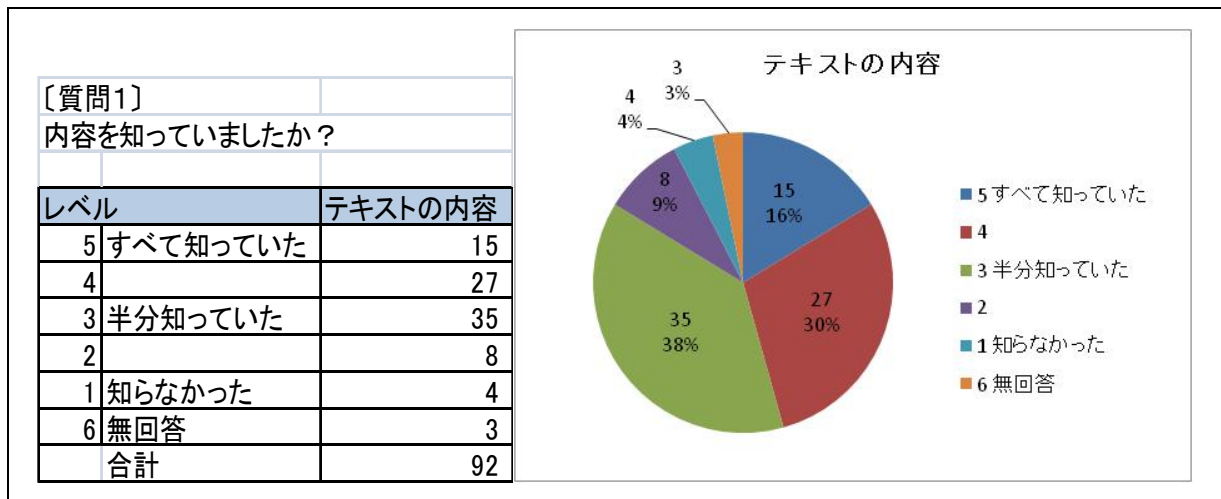
心となった。評価は、23人で研修に使った4つの項目だけを評価の対象にし、一人一人がその項目を評価した。そのためテキストは延べ92人で評価したことになる。

評価したテキストの項目タイトルは次の4項目である。

Vol.1 テキストの評価

- テキストの章タイトル
- 8. 地域の特性と防犯対策
 - 9. 学校での防犯教育
 - 19. 防犯器具の使い方
 - 20. 国の施策と条例の理解

最初の評価方法は、2つの質問（テキストの内容、テキストの理解）に対して、5段階評価で回答してもらった。その結果の集計表と円グラフは下記のとおりである。



アンケート結果は、第3回研修会の結果と同じような傾向にあり、研修の有効性がわかる。

自由記述では、主に次のようなコメントがあった。

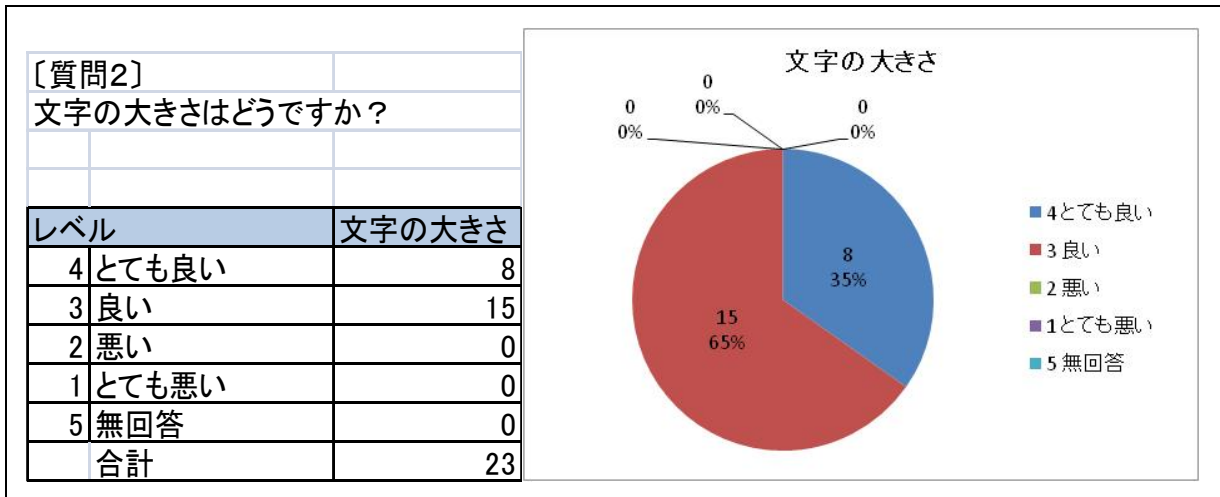
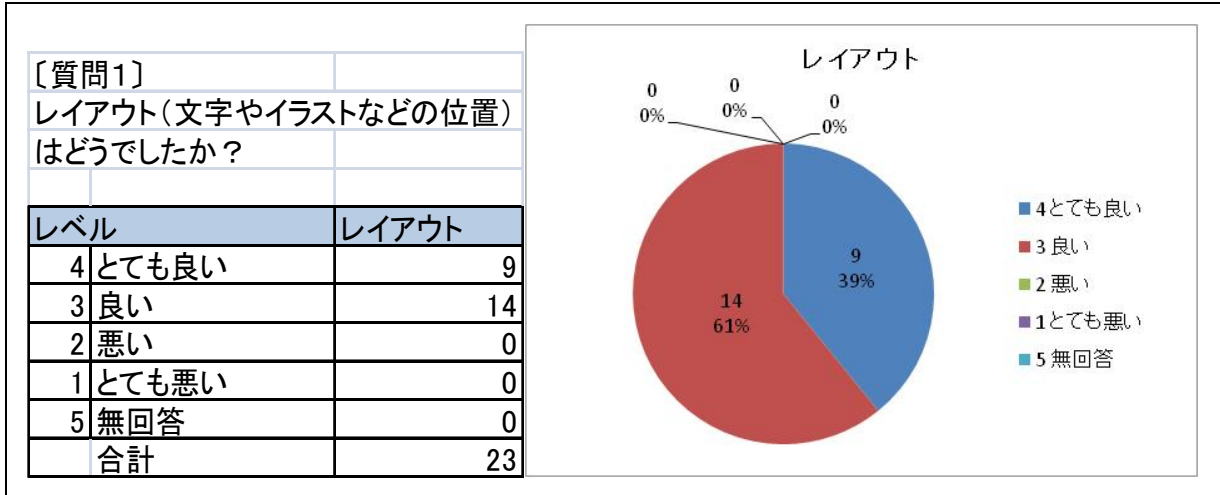
(コメント) 1) 防犯についても地域の方々に協力してもらっているの、学校と

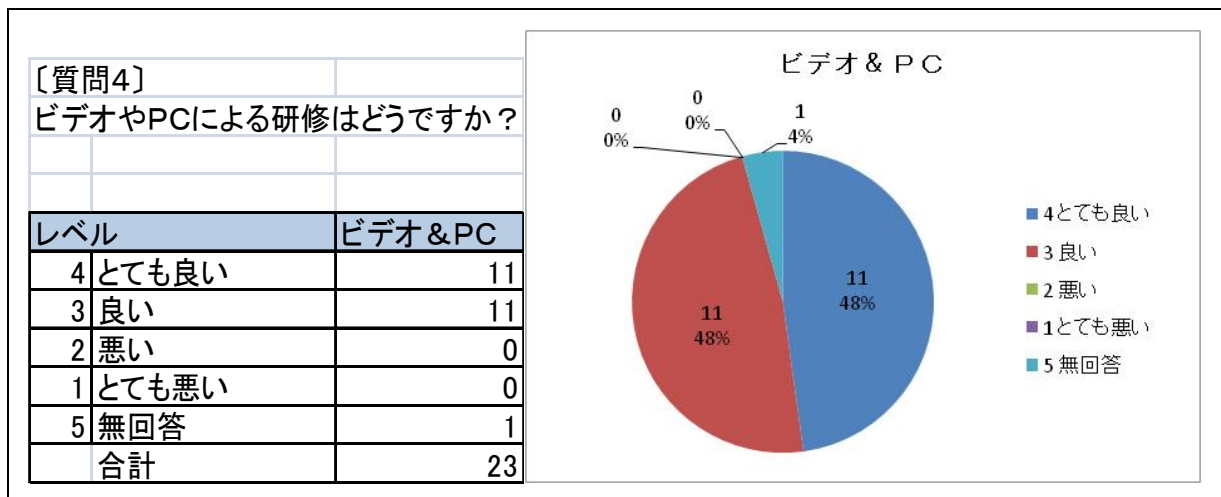
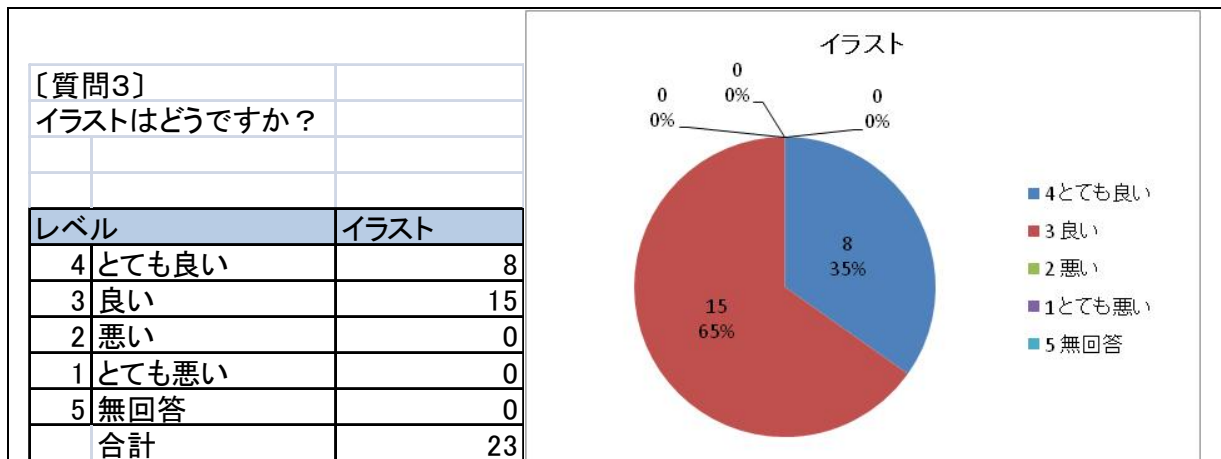
してもさらに意識を高くもって子どもたちの安全面について強化できればと思う。

(コメント2) テキストについては、とても分かりやすいと思いました。ビデオは非常に分かりやすい部分と情報が多すぎて見づらい部分がありましたが、お話は非常に良かったと思います。

(コメント3) ビデオやコンピュータを使った研修は分かりやすかった。

テキストは全体的にどうでしたか？





上記のアンケート結果から第3回研修会とほぼ同じ傾向にある。このことからテキストの評価は高く、集合研修でも自己学習でも有効に使ってもらえることが分かった。

○第5回研修会 藤城地域研修会 平成23年1月29日(土)

この研修会では、アンケートの代わりにVol.2テキストの仮編集した原稿を査読してもらい、赤入れしてもらうことを研修と並行して実施した。これらの情報を参考にテキストに反映することにする。

査読のテキスト項目のタイトルは次のとおりである。

テキスト8 「子どもの」生活の理解

テキスト9 「子どもへの安全指導」

テキスト13 「子どもを守る行政の取り組み」

査読結果、次のようなコメントがあった。

(コメント1) 子どもにできる護身術では、「逃げる」だけでなく、「大声を出す」練習や訓練をすることが重要である。大声は「キャー」「ワァー」はダメで、「助けて!!」の方がよい。

(コメント2) 子ども遊び場は公園、神社、マンションの空き地などで、遊びの種類はサッカー、野球、縄跳びなど。

(コメント3) 保護司の役割は、非行、犯罪への芽を摘むことが重要である。

(コメント4) 声かけ事例は、京都府警のホームページなどを見ると意外と男児に対しても多いようである。男の子の親は案外損ことを知らないように思われるので、その具体的なデータも入れ、男の子の親に対しての注意を高めるようにするとよいと思う。

○第6回研修会 苫小牧地域研修会 平成23年2月27日(日)

第5回と同様にVol.2テキストの仮編集した原稿を査読してもらい、赤入れしてもらうことを研修と並行して実施した。これらの情報を参考にテキストに反映することにする。

査読のテキスト項目のタイトルは次のとおりである。

テキスト4 「見守り活動の運営」

テキスト6 「防犯情報の伝達」

テキスト12 「ネット犯罪に遭わない為の知恵」

査読結果、次のようなコメントがあった。

(コメント1) 見守り活動グッズなど貸出を促進するよう町中会へ呼びかけることも大切である。

(コメント2) 合言葉は困った時の合言葉である。

(コメント3) メールでの情報提供についての「良い点」「悪い点」も挙げる方がよい。提供方法について、地域によって実情は異なるであろうが、もっと細かく教えてもらえるとよい。

(コメント4) プレスリリースの書き方の事例だけでなく、タイトルや本文等、資料として白紙のフォーマットを添付するとよい。

⑦教材Gフィールドでの研修会受講者の感想及び評価の聞き取り結果

感想

- ・研修を受けるたびに防犯の認識が大きくなり、仲間を誘って協同活動し、自信を持って防犯活動に参加できるようになった。
- ・ビデオ教材を効果的に使うことにより、各地域のどこでも、どのような単位でも、研修会を開催し、防犯活動の拡大を目指すことができる。
- ・近隣の地域で「志」同じくしている人々の交流や意見交換の機会を増やし、情報収集や情報交換を行うことができる「防犯リーダー指導力アップ研修」は有効であった。
- ・「防犯活動は机上で行うのでない。現場に出るのだ。」ということを強く感じた。

テキスト及びビデオ教材の評価

- ・教材(テキスト、ビデオ)はわかりやすく、自分たちの活動の基本的なことが理解できたと、良い評価を得た。
- ・テキストでは、文章だけでなく箇条書きにした方がわかりやすいという意見があった。
- ・社会実装を目標にした自立型研修を目指しているので指導者用教材等で補足

する必要がある。

- この教材が広く普及すれば、講師自身は何から何まで準備する負担が軽減され、研修会を開催しやすくなる。
- このテキストとビデオは社会にすぐに役に立ち、即使える教材になると思う
- 教材がインターネット等で配信されたら、日本全国誰もどこでもすぐに「防犯研修会」が開催でき、防犯ボランティアを永続的に増やすことができると思う。
- テキストは、詳細な内容で書かれているが、もっとわかりやすい表現にした方がよい、別の事例の方がわかりやすい、などの指摘があった。
- ビデオは、全国で広く使われるようになったとき大きな力を防犯リーダーに与えてくれる、実例で根拠に基づいた知識と素養を身に付けて次世代のリーダーを育成するための最高のツールになるなどの意見があった。
- 教材が公開されると研修に参加した受講者（防犯リーダー）は、講師として自分たちの地域で研修会を開催できるようになるとの意見があった。

自立型研修の可能性

- 地域力の高い藤城地域では、自分たちが「講師」となり、当プロジェクトで開発した研修教材（テキスト、ビデオ）を使い、問題なく研修を進めることができていた。
- 近い将来、町内会や班、PTAなどでも教材を活用し、積極的に「防犯リーダー研修会」が開催されることがたかいことが実証できた。

(4) 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
H22. 4. 30	総括グループ会議	J A P E T	大島教授・増田・西江
H22. 5. 2	第1回G3グループ全体会議	デスカット品川港南口店	・新テキスト&防犯事典 ・基準表 ・今後のスケジュール
H22. 5. 9	第一回リーダー会議	東京大学生産技術研究所	R I S T E Xとの意見交換会の結果を受けての協議
H22. 5. 12	第1回グループ間会議 (G3 & G4)	目白大学教育研究所	・e-Learningシステムの内容について
H22. 5. 29	第2回グループ間会議 (G3 & G4)	園田学園女子大学	・防犯用e-Learningシステム ・研修データのデータ移行
H22. 5. 31	総括G・支援Gグループ会議	東京大学生産技術研究所	中央研修会について
H22. 6. 2	第二回リーダー会議	東京大学生産技術研究所	進捗報告、第三者評価について
H22. 6. 10	総括G・教材Gグループ会議	目白大学教育研究所	第三者評価について
H22. 6. 16	総括G・支援Gグループ会議	J A P E T	堀田教授
H22. 7. 5	第3回グループ間会議 (G2 & G3)	東京大学 生産技術研究所	・中央研修会開催に当たって、事前打合せ
H22. 7. 9	第4回グループ間会議 (G2 & G3)	東京大学 生産技術研究所	・中央研修会開催に当たって、事前打合せ
H22. 7. 15	第2回G3グループ全体会議	デスカット品川港南口店	・防犯特性分析システム ・研修会説明用パンフレット ・研修会 (藤城、苫小牧) ・今後の開発内容 (テキスト、ビデオ)
H22. 7. 30	総括Gグループ会議	J A P E T	大島教授・増田・西江 評価基準について
H22. 9. 1	総括Gグループ会議	J A P E T	大島教授・増田・西江 評価基準について
H22. 9. 2	総括Gグループ会議	J A P E T	大島教授・増田・西江 評価基準について
H22. 9. 9	第3回G3グル	京都市立藤城	・Vol.2テキストの目次案及び執

	ープ全体会議	小学校 ふれ あいサロン	筆内容の検討 ・研修スケジュール ・ビデオ制作
H22. 9. 11	第三回リーダー 会議	東京大学生産 技術研究所	進捗報告・第三者評価会議につい て
H22. 10. 5	第四回リーダー 会議	東京大学生産 技術研究所	進捗報告・第三者評価会議につい て
H22. 10. 16	第五回リーダー 会議	東京大学生産 技術研究所	同日午後を実施された「第三者評 価会議」に向けた最終打合せ
H22. 10. 18	総括G・教材Gグ ループ会議	目白大学教育 研究所	進捗報告
H22. 10. 21	第4回G3グル ープ全体会議	デスカット品 川港南口店	・インタビュービデオ収録 ・報告事項 ・自立型研修 ・研修パッケージの社会実装 ・ビデオ制作の進捗 ・Vol. 2 テキスト
H22. 10. 26	総括Gグループ 会議	J A P E T	矢萩先生に御相談：西新井第一小 学校における実証について
H22. 11. 18	総括G・教材Gグ ループ会議	目白大学教育 研究所	進捗報告
H22. 11. 27	第5回G3グル ープ全体会議	京都市立藤城 小学校 ふれ あいサロン	・Vol. 2 テキスト原稿の点検・確 認 ・今後の予定 ・研修会の今後の日程 ・Vol. 1 ビデオの点検・確認
H22. 12. 9	総括G・教材Gグ ループ会議	目白大学教育 研究所	進捗報告
H23. 1. 13	総括G・教材Gグ ループ会議	目白大学教育 研究所	進捗報告
H23. 1. 17	第六回リーダー 会議	東京大学生産 技術研究所	進捗報告・ポスターセッションに ついて
H23. 1. 19	総括Gグループ 会議	J A P E T	大島教授・増田・西江 評価基準 について
H23. 1. 19	第6回G3グル ープ全体会議	デスカット品 川港南口店	・リーダー会議の報告 ・研修会の今後の日程 ・Vol. 1 テキスト対応ビデオの点 検 ・G3 Webサイトページ構成 ・Vol. 2 テキストの原稿の仕上 がり状況及び点検

H23. 2. 18	総括G・支援G グループ会議	東京大学	防犯特性分析機能の活用の社会実装計画について
H23. 2. 22	第七回リーダー 会議	J A P E T	進捗報告および来期計画について
H23. 2. 23	総括G・教材G グループ会議	目白大学教育 研究所	進捗報告および来期計画について
H23. 2. 24	総括Gグループ 会議	J A P E T	岩見沢市 黄瀬様に御相談：岩見沢市での実証について
H23. 2. 28	第7回G3グル ープ全体会議	登別市第一滝 本館 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・Vol.2テキストの原稿仕上がり状況 ・G3Webサイトの現状 ・次年度計画
H23. 3. 1	総括G・支援G グループ会議	J A P E T	堀田教授に進捗報告
H23. 3. 30	総括G・教材G グループ会議	目白大学教育 研究所	来期計画について

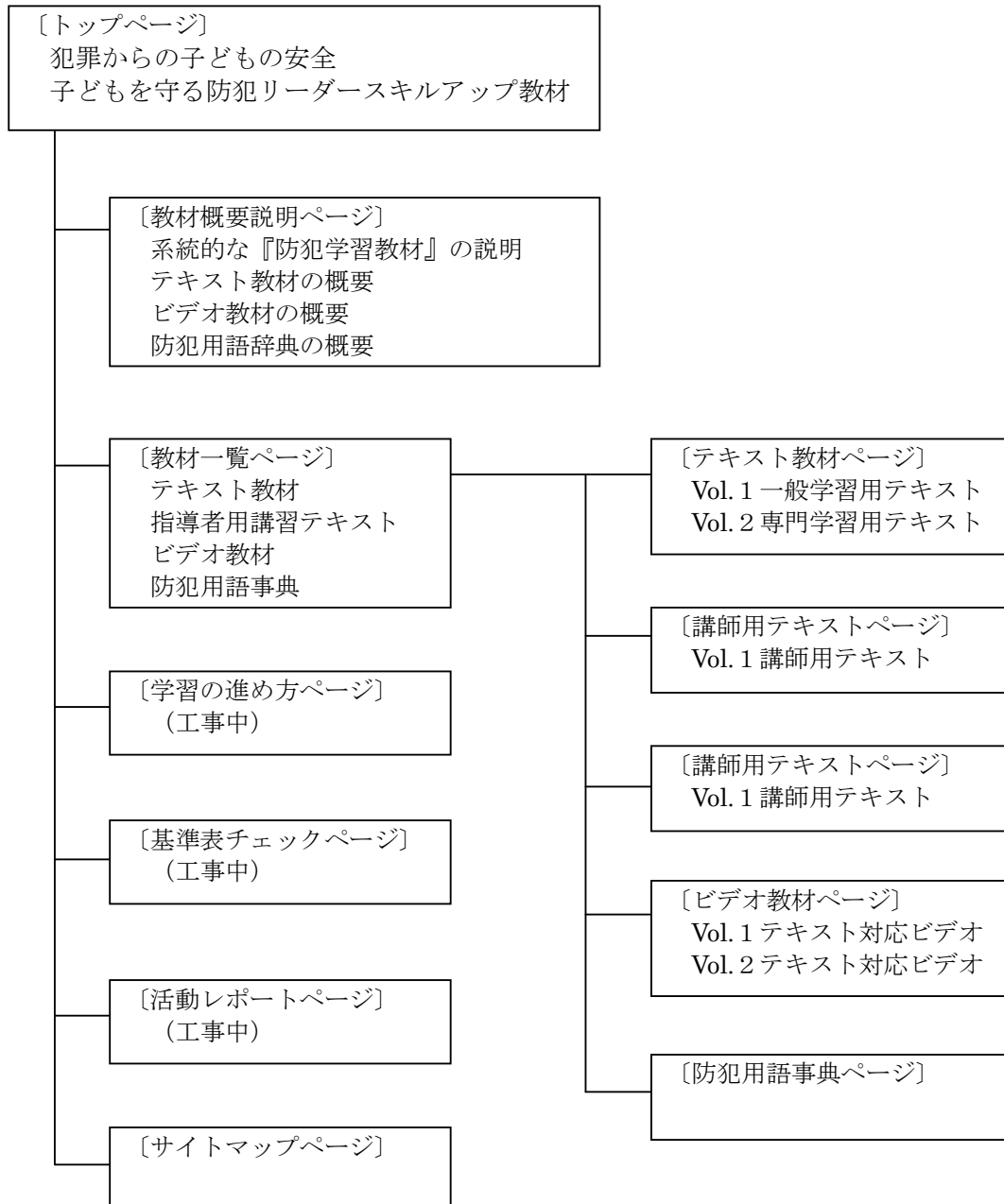
4. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

①成果物の活用を目的としたWebサイトの改修

昨年度までに、防犯リーダー指導力規準・基準表および教材はほぼ完成している。また、防犯特性分析システムも開発途中で問題はあつたもののある程度は活用可能な状態にある。そこで次年度は、これらの成果物を地域住民や自治体職員などに実際に広く活用してもらうための準備を進めている。

その準備の一環として、教材Gでは、これまでのプロジェクトサイトを社会実装の実現に向けた普及活動を目的としたWebサイトに改修した。このサイトは、「犯罪からの子どもの安全 子どもを守る防犯リーダースキルアップ教材」というタイトルで、教材Gで開発した教材が自由に閲覧でき、提供できるようにした。サイトの構成は次の通りである。

教材G : Webサイトの構成



②社会実装に向けた、自治体との協働

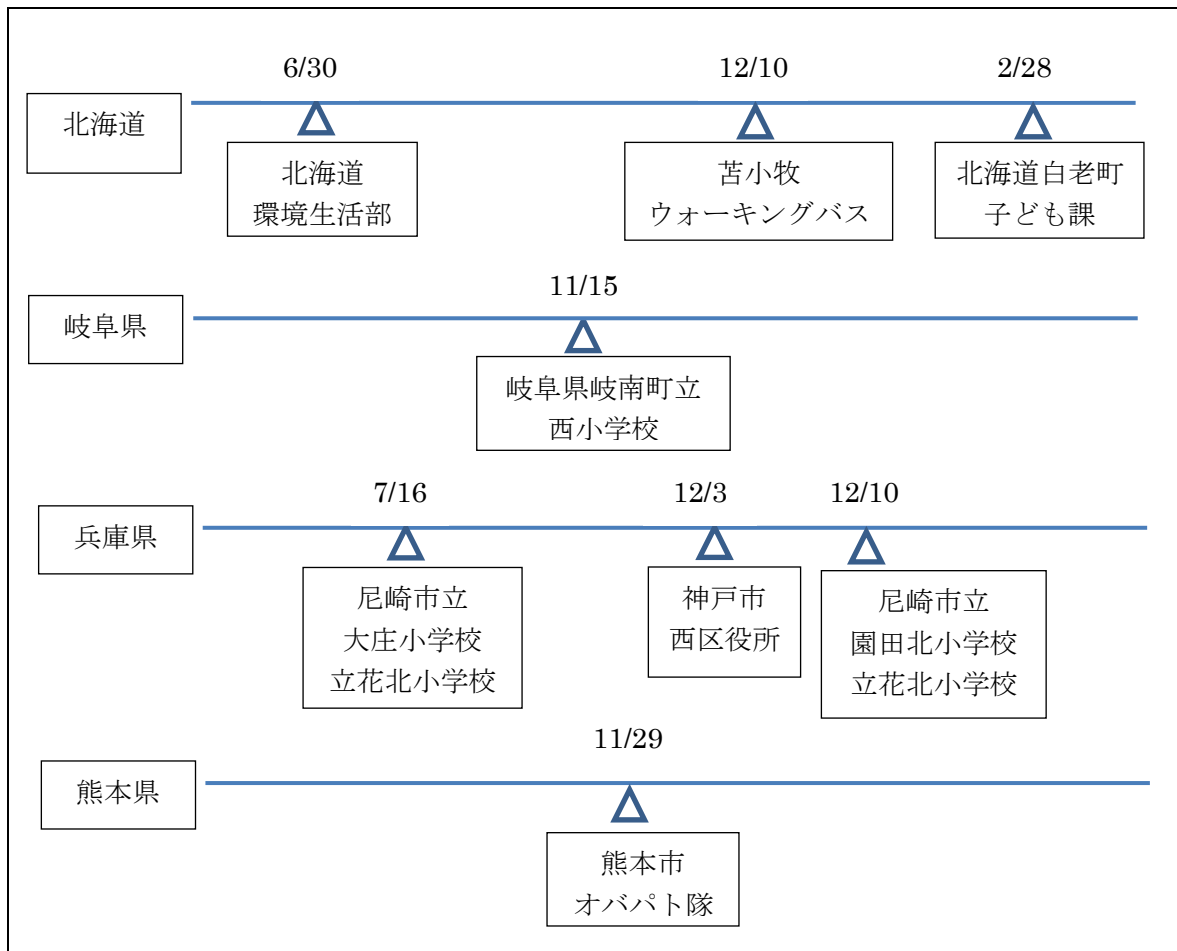
防犯リーダーを指導する防犯コーディネータの担い手として、行政職員を想定し、市レベルの自治体と協働しながら、防犯リーダー指導力アップを目的とした地域自立型研修会の実施・普及に努める。協力地域は、北海道岩見沢市、滝川市、夕張市を候補として具体的な進め方の協議を始めている。岩見沢市は、広域ユビキタスコミュニティ協働事業を推進しており、その事業の一翼として本プロジェクトのシステムを活用する計画をしている。

具体的には、岩見沢市・滝川市・夕張市の行政における当該担当職員が、本プロジェクトの防犯指導支援システムを活用して、市内のモデル地域の防犯特性を分析して、その結果を当該地域の防犯リーダーに提示し、地域独自の研修カリキュラムを検討と作成を促す。地域の防犯リーダーは、自分たちの地域の特性に合った研修カリキュラムを作成し、それを実行する。

岩見沢市と滝川市の両市においては、去る3月17日・3月18日に「ICT利活用セミナー～安全安心げんきな地域生活のために～」(主催:北海道中央地域安全安心協議会、後援:夕張市・滝川市・岩見沢市)という催しが行われ、本プロジェクト・メンバーである増田(JAPET)がプレゼンテーションを行い、協力を要請した。

③その他、地域への訪問・広報活動

開発した教材を防犯活動の道具として、普及に向けた新規地域への訪問・広報活動を教材Gが実施した。



○北海道環境生活部訪問

日時 平成22年6月30日(水) 17:30~18:30
場所 北海道環境生活部くらし安全局くらし安全推進課
応対者 安全安心人権グループ 高見昌志氏(主任)
訪問者 プロジェクトサイド 原 克彦(目白大学教授)
佐藤一美(NPO法人エクスプローラー北海道代表理事)

内容 本プロジェクトの成果物普及について、道内で協力を要請した。

- ・本プロジェクトの概要を説明
- ・研修の進め方を説明
- ・高見氏からの要望など

年配のリーダーが多いので、わかりやすいシステムが必要
研修手順がわかるパンフレットが必要
テキストや防犯用語辞典は役に立つ教材であると評価できる
(ボランティアメールマガジンへの広報、研修会実施の呼びかけ)

○尼崎市立大庄小学校訪問

日時 平成22年7月16日(金) 14:00~15:00
場所 兵庫県尼崎市立大庄小学校
応対者 大庄小学校 河原 毅先生(校長)
訪問者 プロジェクトサイド 原 克彦(目白大学教授)
内容 本プロジェクトの概要について説明し、研修会開催を依頼し、協力を要請した。(興味を示されたが、明確な回答はなかった。)

○尼崎市立立花北小学校訪問

日時 平成22年7月16日(金) 16:00~17:00
場所 兵庫県尼崎市立立花北小学校
応対者 立花北小学校 山下陽一先生(教頭)
訪問者 プロジェクトサイド 原 克彦(目白大学教授)
内容 本プロジェクトの概要について説明し、研修会開催を依頼し、協力を要請した。(明確な回答はなかったが、前向きに考えてもらえた。協力の可能性が大きいので、再度訪問して協力要請をする。)

○岐阜県岐南町立西小学校訪問

日時 平成22年11月15日(月) 11:00~12:00
場所 岐阜県羽島郡岐南町立西小学校
応対者 西小学校 福井義則先生(校長)
西小学校PTA 宮川寿美氏(PTA会長)
岐南町社会教育 林 明彦先生(主事)
訪問者 プロジェクトサイド 原 克彦(目白大学教授)
内容 本プロジェクトの概要について説明し、研修会開催を依頼し、協力を要請した。(岐南町通学安心システムを導入し、子ども防犯には力を入れている地域) 西小学校区における子ども見守り活動は4つの団体(民生委員の下校見守り、青パト隊の見守り活動、PTAの交通安全指導、放課後見守り隊のシルバーパトロール)で行っているが、組織としてまとまりがなかった。PTAが中心となってやっとまとまり活動することになった。定期的な集まりの会で、教材を

利用した「研修会」が可能かどうかを検討したいとの回答で、研修会の企画・実施の可能性が高いことが分かった。

○熊本県オバパト隊訪問

日時 平成22年11月29日(月) 10:00~12:00

場所 熊本県NPO法人オバパト隊

応対者 NPO法人オバパト隊 下川邦子氏(隊長)

訪問者 プロジェクトサイド 原 克彦(目白大学教授)

内容 オバパト隊の活動状況をインタビューした。また、研修テキストは、熊本県庁、熊本県警、市内ボランティア団体等に広報してもらうことになった。

・わんわんパトロールの結成

わんわんパトロールは、学校・警察・犬のパートナー・地域の人が参加して、学校の校庭で若い保護者を対象に発足式を開催した。

オバパトパト犬の首にバンダナを巻く。

105匹の犬が参加したが、犬にもきちんとしつけをする。

(犬のパートナーのマナーの向上にもつながる)

動物クリニックの院長等の協力を得る。

・オバパト隊の活動状況

活動費は自ら生み出す。(活動費がないと長続きがしない)

自主防犯ボランティアは主導権争いをしないようにする。

毎月わくわくイベントを開催する。

(パトロール隊の年齢に合わせたイベントを企画する)

熊本市内に1000坪の「ふれあい公園」を造る。(緑化・整備・企画)

不良グループを改心させる。

(「認め・褒め・励ますこと」は不良グループの更生につながる)

地域の名人を把握しておく。(人材をつかむと活動がしやすくなる)

・防犯コーディネーターの力

地域の人材とは日常的に連絡を取り、信頼関係を保っておく。

(地域の人材をつかみ、イベント等で有効に活用する)

活動資金を調達できる。

イベントを企画できる。

○神戸市西区役所訪問

日時 平成22年12月3日(金) 10:15~11:15

場所 神戸市西区役所

応対者 まちづくり推進課 松原清志氏(課長)

葛原 岳氏(主査)

訪問者 プロジェクトサイド 原 克彦(目白大学教授)

尚和 慧(目白大学研究補助員)

寺本篤史(目白大学研究補助員)

内容 西区の防犯活動状況をインタビューする中で、行政の支援、まちづくり推進の理想形、地域活動のポイントについて、普及活動を展開していく上で参考にすることができた。

・行政としての支援

竹の台ふれあい町協議会の運営費の補助及び活動の支援
西区全域的に取り組んでいる防犯・子ども安全に対する活動
神戸市「青少年育成協議会」の体制

- ・まちづくり推進の理想形
地域の組織との緩やかな連携
(自治会・婦人会・老人会・青少年育成協議会などの多くの団体)
地域の子どもの安全の理想形
ボランティアの協力
- ・地域活動の3つのポイント
「まちづくり」のポイント
子どもの安全として「声かけ・見守り運動」の普及
地域の緩やかな連携への行政の理想形

○苫小牧地域のウォーキングバス取材

日時 平成22年12月10日(金) 7:50~8:30

場所 北海道苫小牧市立拓勇小学校(通学路)

応対者 NPO法人エクスプローラー北海道 佐藤一美氏(代表理事)

取材者 プロジェクトサイド 尚和 慧(目白大学研究補助員)
寺本篤史(目白大学研究補助員)

内容 NPO法人エクスプローラー北海道が、イギリスで発祥した「ウォーキングバス」を参考にして、地域や学校と子どもたちと連携しながら提案・構築した苫小牧発の「ウォーキングバスシステム」を取材した。取材は、子どもたちの「ウォーキングバス」通学の様子をビデオ撮影と写真撮影の2つの方法で行った。子供たちの通学時間帯に合わせて、朝早く7:50にバス停に集合し、学校までの約30分間を取材したが、今後の防犯活動の事例として紹介できるようにする。

○尼崎市立園田北小学校訪問

日時 平成22年12月10日(金) 10:00~11:00

場所 兵庫県尼崎市立園田北小学校

応対者 尼崎市立園田北小学校 杉山寛明先生(校長)
米田 浩先生(教頭)

尼崎園田北地域の人 13名

P T A 8名(保護者助成)、地域5名(男性3名、女性2名)

ふれあい委員 校区(南清水地域と猪名寺地域の2地域)

尼崎北署

訪問者 プロジェクトサイド 原 克彦(目白大学教授)

内容 地域の防犯連絡協議会地域役員懇談会で防犯プロジェクトの概要と教材(テキスト、ビデオ)について説明し、研修会開催を依頼し、協力を要請した。懇談会へ出席の方との質疑を通じて、プロジェクトへの協力の可能性はある。

○尼崎市立立花北小学校訪問

日時 平成22年12月10日(金) 11:30~12:15

場所 兵庫県尼崎市立立花北小学校

応対者 尼崎市立立花北小学校 榎野友弥先生(校長)

山下陽一先生(教頭)

訪問者 プロジェクトサイド 原 克彦(目白大学教授)

内容 防犯プロジェクトの概要と教材(テキスト、ビデオ)について説明し、研修会開催を依頼し、協力を要請した。

・協力要請に対する学校側からの応答

防犯に関して大庄地区等が取り組んでいるので、本地域でも実施したい。隣接校区との連携も含めて、検討してみたい。

すぐにも取りかかれる(準備・計画・実施)よう、調整を進める。

地域の有力者(元大阪市内の校長)に相談の上、方向・方針を決めたい。

後日確認を取る(教育委員会や市への働きかけ)。

○北海道白老町子ども課訪問

日時 平成23年2月28日(月) 13:00~14:00

場所 北海道白老郡白老町教育委員会子ども課

応対者 白老町子ども課 中島圭一氏(教育部子ども課長)

訪問者 プロジェクトサイド 原 克彦(目白大学教授)

尚和 慧(目白大学研究補助員)

宮原克彦(目白大学)

佐藤一美(NPO法人エクスプローラー北海道代表理事)

内容 白老町の概要や防犯活動状況をインタビューした。また、防犯プロジェクトの概要と教材(テキスト、ビデオ)について説明し、教材の利用を依頼した。

・白老町の防犯活動状況

虎杖小学校では、SOS避難の家の旗を作っている。

「安全マップ」はPTAで作成している。

防犯パトロール(青色回転灯)は月15日間活動している。

教育委員会では、情報を集め、指導員(40~50歳代)に電話で流す。

白老町防犯協会主催による講習会(町内会)を開催する。

(PTA、青少年指導員による現況報告及び祭りの案内など)

小学校・中学校・高等学校の登下校通学路の見守りを行っている。

(小学校は町内会の人や保護者)

(中学校は先生、町内会の人、保護者(学校が割り振る))

交通安全に対する研修会は行っているが、学校における子ども安全に対する研修会は行っていない。

子どもに対する安全にかかわる事件&事故はあまり発生していない。

(1年間19件程度)

「子どもを守るみんなの目」としてステッカーを貼ってもらっている。

(動く110番:問題があるときは連絡してもらう)

見廻り時、「パトロール中」の旗を立てる。

5. 研究開発実施体制

(1) PDCA総括グループ

① リーダー名：坂元 昂（社団法人 日本教育工学振興会 会長）

② 実施項目

- ・プロジェクト全体の研究開発内容の総括（リーダー会議の実施、計画書・報告書の作成など）
- ・中央研修会実施の総括
- ・研修会実施マニュアルの作成（地域独自の研修カリキュラム策定支援）
- ・調査対象4地域におけるPDCAの総括
- ・追加調査地域への折衝及び、PDCAの総括
- ・プロジェクトホームページの運営管理

(2) 支援システム開発グループ

① リーダー名：目黒公郎（東京大学生産技術研究所 教授）

堀田博史（園田学園女子大学・教授）

② 実施項目：防犯指導支援システムに含まれる以下の各種機能の研究開発

- ・防犯特性分析機能
- ・防犯情報検索機能
- ・防犯活動検索機能
- ・防犯指導効果調査機能
- ・防犯遠隔学習機能

(3) 教材開発グループ

① リーダー名：原克彦（目白大学 教授）

② 実施項目

< A：調査・分析の項目 >

- (1) 防犯リーダー、防犯コーディネータに該当する指導力の内容、方法、研修環境などの調査。
- (2) 防犯特性分析システムとの連携を円滑に行うための研修カリキュラム策定の方法についての検証と改善。
- (3) 支援Gが開発する防犯遠隔学習システムを効果的に活用するための教材の作成方法について、支援Gと連携しながらの調査及び、本年度中にテキストやビデオ教材の一部をWeb化する方法について調査。
- (4) インタビューによる聞き取り調査のデータのテキストマイニング等の手法を用いた整理・分析。
- (5) 防犯リーダー、防犯コーディネータの資質や役割などについてのインタビュー調査。
- (6) テキストならびにビデオ教材等の研修中の効果について調査・分析。

< B：開発の項目 >

- (1) 防犯リーダー、防犯コーディネータの規準表・基準表の開発。
- (2) 研修カリキュラムの開発
- (3) 研修用教材の開発

6. 研究開発実施者

研究グループ名：調査・実践・検証グループ（調査グループ）

氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目
坂元 昂	サカモト タカシ	(社)日本教育工学振興会	会長	PJ総括 能力基準表・カリキュラムの検証
出口 保行	デグチ ヤスユキ	東京未来大学 こども心理学部	教授	能力基準表・カリキュラムの検証補助
大島 直樹	オオシマ ナオキ	山口大学大学院 技術経営研究科	准教授	評価実施 効果検証
森田 和夫	モリタ カズオ	(社)日本教育工学振興会	事務局 局長	PJ事務局 運営管理
権矢 真理	ヨコヤ マリ	NPO法人 子どもの危険回避研 究会	所長	既存データ収集、分類
増田 迪博	マズダ ミチヒロ	(社)日本教育工学振興会	調査研究担 当調査役	PJ事務局 運営管理
西江 麻由美	ニシエ マユミ	(社)日本教育工学振興会	アドバイザー スタント研究 員	PJ事務局 運営管理補助 既存デー タ分類整理
柳田 典子	ヤナギダ ノリコ	(社)日本教育工学振興会	研究補助員	資料収集 整理補助
大塚 真理子	オオツカ マリコ	(社)日本教育工学振興会	研究補助員	資料収集 整理補助 URLチェック

研究グループ名：防犯情報分析グループ（分析グループ）

氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目
目黒 公郎	メグロ キミロウ	東京大学生産技術研究所	教授	防犯特性分析機能の設計、構築と検証
近藤 伸也	コドウ シンヤ	人と防災未来センター	主任研究員	防犯特性分析機能の設計、構築と検証 運営
大原 美保	オオハラ ミホ	東京大学生産技術研究所	准教授	防犯特性分析機能の設計、構築と検証 運営
沼田 宗純	ヌマタ ムネヨシ	東京大学生産技術研究所	助教	防犯特性分析機能の設計、構築と検証 運営
阿部 真理子	アベ マリコ	東京大学生産技術研究所	大学院	既存データ収集、分類 試行実施
岸田 幸子	キシダ サチコ	中央大学大学院工学系研究科	M1	防犯特性分析機能の設計補助
齊藤 勝久	サイトウ カツヒサ	中央大学大学院工学系研究科	M1	防犯特性分析機能の設計補助
高橋 美奈	タカハシ ミナ	東京大学生産技術研究所	研究補助員	防犯特性分析機能の開発補助 デー タベース入力
小田 蘭子	オダ マユコ	東京大学生産技術研究所	研究補助員	会議連絡調整 資料準備 議事内容 整理 予算管理
廣田 るり子	ヒロタ ルリコ	東京大学生産技術研究所	研究補助員	既存データ収集、分類 試行実施
石川 直美	イシカワ エミ	東京大学生産技術研究所	研究補助員	既存データ収集、分類 試行実施

研究グループ名：教材開発グループ（教材グループ）

氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目
原 克彦	ハラ カツヒコ	目白大学 社会学部	教授	防犯指導力育成プログラムの開発、検証
内橋 美佳	ウチハシ ミカ	目白大学 教育研究所	助手	防犯指導力育成プログラムの開発、検証補助
宇田川 香織	ウダガワ カオリ	目白大学 教育研究所	助手	防犯指導力育成プログラムの開発、検証補助
尚和 慧	ショウワ サトル	目白大学 社会学部 メディア情報学科	研究補助員	録音ビデオ撮影/会議議事記録整理
A				
B				

研究グループ名：防犯指導支援システムグループ（支援グループ）

氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目
堀田 博史	ホツタ ヒロシ	国田学園女子大学 未来デザイン学部	教授	e-Learningを応用した防犯指導支援システム(Web)の開発、検証 運営
稲熊 孝直	イナグマ タカナオ	国田学園女子大学	非常勤講師	e-Learningを活用した防犯指導支援システム(Web)の構築補助
佐藤 弘毅	サトウ コウキ	名古屋大学 留学生センター	講師	防犯指導効果調査システムの構築補助
上根 英之	ウエスギ ヒデアキ	国田学園女子大学	非常勤講師	防犯指導支援システム(Web)の構築補助
森田 健宏	モリタ タケヒロ	鳳川学院短期大学 児童教育学科	産教授	防犯指導支援システム(Web)全体の構築補助
内橋 美佳	ウチハシ ミカ	国田学園女子大学 国慶文化学部	助手	e-Learningを応用した防犯指導支援システム(Web)のコンテンツ作成 校正、印刷及び最終チェック、e-Learningシステム(Web)のコンテンツ作成補助
荒木 かおり	アラキ カオリ	国田学園女子大学	研究補助員	e-Learningシステム(Web)のコンテンツ作成補助
浦口 美園	ウラグチ ミズノ	国田学園女子大学	研究補助員	e-Learningシステム(Web)のコンテンツ作成補助
片岡 弘会	カタオカ ヒロエ	国田学園女子大学	研究補助員	WebサイトDVDコンテンツ調査整理 会議記録整理

7. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

7-1. ワークショップ等 特になし

7-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

一般社会（市民）への情報発信などの本事業に関するアウトリーチ活動

- ①書籍、DVDなど論文以外に発行したもの：特になし
- ② ウェブサイト構築：平成22年1月12日から公開しているものを引き続き継続。HPのチラシを作成、関係各所に配布した。

③ 学会以外のシンポジウム等への招へいによる講演実施 等

・「地域連携シンポジウム」

日時：2010年7月31日(土) 13:00～18:00

会場：明治大学駿河台キャンパス リバティタワー13階1136教室

主催：情報コミュニケーション学会

後援：明治大学ユビキタスカレッジ運営委員会

明治大学地域連携室

明治大学社会イノベーション・デザイン研究所

次世代大学教育研究会

協賛：財団法人啓明社

本プロジェクトからの発表概要

演題：「地域連携による子どもを守る防犯教材の開発」

発表者：原 克彦（目白大学）

尚和 慧（目白大学）

内橋 美佳（目白大学）

石原 一彦（岐阜聖徳学園大学）

松井 順子（藤城小学校学校運営協議会）

高橋 猛（藤城小学校学校運営協議会）

佐藤 一美（NPO法人エクスプローラー北海道）

・「ICT活用セミナー～安全安心げんきな地域生活のために～」

日時：2011年3月17日(木) 13:30～16:30

会場：岩見沢市自治体ネットワークセンター4F マルチメディアホール
主催：北海道中央地域安全安心協議会
演題：子どもを守る地域防犯力支援
～防犯指導力向上などICTを活用した効率的効果的な防犯活動促進～
発表者：増田迪博（JAPET 調査研究担当調査役）

- ・「ICT利活用セミナー～安全安心げんきな地域生活のために～」
日時：2011年3月18日(金) 13:30～16:30
会場：滝川市文化センター
主催：北海道中央地域安全安心協議会
演題：子どもを守る地域防犯力支援
～防犯指導力向上などICTを活用した効率的効果的な防犯活動促進～
発表者：増田迪博（JAPET 調査研究担当調査役）

7-3. 論文発表（国内誌 2件、国際誌 0件）

①「安全・安心メールの自動分類と警察統計との比較による対策利用価値の考察」
発表者：齋藤勝久, 沼田宗純, 目黒公郎(東京大学生産技術研究所)
H22.7 生産研究 62(4), 393-397, 2010-07

②「子供の防犯のための地域活動を支援する防犯特性分析システムの開発」
発表者：沼田宗純, 廣田るり子, 齋藤勝久, 目黒公郎(東京大学生産技術研究所)
H22.7 生産研究 62(4), 387-391, 2010-07

7-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

- ①招待講演（国内会議 0件、国際会議 0件）
- ②口頭講演（国内会議 0件、国際会議 0件）
- ③ポスター発表（国内会議 0件、国際会議 0件）

7-5. 新聞報道・投稿、受賞等

① 新聞報道・投稿

京都新聞 市民版 平成22年8月3日(火)

「防犯リーダーの育成に力」～伏見・藤城小運営協議会 子らの見守り継続へ
以下、記事より抜粋

科学技術振興機構（JST）が進める「系統的な『防犯学習教材』研究開発・実践プロジェクト」の事業。同運営協は2008年度から、試行的モデル地域の一つとして参加している。研究会を通じ、開発中の教材や自分たちの見守り活動の評価を行っている。

同協議会顧問の原克彦・目白大教授は「パトロールや登下校の見守りを行う理由や、その中で子どもの変化を見つけれられているのかについて、意識できていない人が多い。総合的な防犯体系のためには、地域ボランティアを指導するリーダーの育成が欠かせない。」と訴える。

苫小牧民報 平成22年8月3日(火)

「指導力アップへ研修」～町内会の防犯担当者ら30人 苫小牧
以下、記事より抜粋

NPO法人エクスプローラー北海道(佐藤一美代表理事)の「苫小牧子どもを守る防犯リーダー指導力アップ研修会」が1日、苫小牧拓勇小学校で開かれた。

(中略)

独立行政法人科学技術振興機構が研究している防犯学習教材の開発グループが編集したテキストを使い、住民による防犯活動の在り方を学ぶのが狙い。

- ② 受賞 特になし
- ③ その他

7-6. 特許出願

- ①国内出願 (0 件)
- ②海外出願 (0 件)